

あらた同窓會

令和5年 春季号

令和5年3月23日発行

鹿児島大学農学部
あらた同窓会

電話 099-285-8537

振替口座 02010-2-876



鹿児島市マリポートからみた桜島冠雪（2022年12月24日）（寺田竜太氏提供）

令和4年度会費納付のお願い

(会計年度：2022年10月1日から2023年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで約2万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くために、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙(コンビニまたは郵便局)をご利用ください。

鹿児島大学農学部あらた同窓会報春季号(毎年3月25日発行)への「エッセー」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報・春季号」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。しかし、令和2年から「新型コロナウイルス感染症」の影響で、全国各支部総会、クラス会・グループ活動が開催できない状況が続いており、令和3年春季号から「エッセー」コーナーを新設して、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について会員からご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、令和3年および令和4年春季号には多くのご寄稿をいただき好評でした。本号にも多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。今後も、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿(ワードなどの電子ファイル)と写真(jpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局までにメールでお送りいただきますようお願い申し上げます。

詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。

事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

(※令和6年1月まで)

住 所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部あらた同窓会

目 次

1.会長挨拶

大学構内にある遺構を文化遺産にあらた同窓会長 藤田 晋輔 2

2.学部長挨拶

退任のご挨拶農学部長 橋本 文雄 3

3.次期学部長挨拶

コロナ禍を過ごした卒業生の皆さんへ次期農学部長 寺岡 行雄 4

4.追悼文

荒井 啓先生を偲ぶ岩井 久 5

5.定年退職者等挨拶

定年退職を迎えて津田 勝男 7

阪神・淡路大震災から28年の歩み枚田 邦宏 8

6.特別寄稿

郡元キャンパスの歴史をたどる石田 智子 9

南西諸島での新種ゴキブリの発見坂巻 祥孝 10

7.会員からの寄稿（エッセーなど）

内田 昭さんを偲んで渡辺 幸博 11

離島種子島での高齢者、単身生活！島を楽しむには労力と時間がかかる（その1）.....永井 定明 11

果樹教室卒業生 佐賀で頑張っています太田 政隆 13

コロナ禍の前と今で変わったこと高田 裕司 13

社会人4年目、これまでを振り返って加藤 文俊 14

「鹿児島支部の活動紹介」～「With コロナでの活動」～鯉坂 明彦 15

そこに大義はあるのか？菊川 明 16

カライモ（サツマイモ）から鹿児島大学農学部への大きな期待瀧川（旧姓犬童） 憲洋 17

30年を振り返って.....今給黎 征郎 17

8.学生便り（卒業・修了にあたって）

やりきった大学生活宇都 量子 18

吹奏楽漬けの4年間久保 りさ 19

私の分岐点川畑 茉那 19

鹿児島大学での日々藏元 理彩 20

4年間を振り返って宮川 積喜 20

北海道勤務になりました村瀬 寿安 21

アボカド上小倉 松太郎 21

9.恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

.....事務局 22

10.本部便り

.....事務局 24

11.役員名簿

.....事務局 28

12.会計報告

.....事務局 28

13.鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

.....事務局 31

14.編集後記

.....樗木 直也

会長挨拶

大学構内にある遺構を文化遺産に

鹿児島大学農学部あらた同窓会

会長 藤田 晋輔

(林S 37卒)



令和5年3月ご卒業・修了の皆様、おめでとうございます。鹿児島大学農学部卒業生および在校生のあらた同窓会会員の皆様、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。後先になりましたが、鹿児島大学農学部卒業生および在学生のあらた同窓会会員の皆さま、お変わりなくお過ごしのことと大慶に存じます。

さて、明治期に創設された農林学系の官立学校の中で、日本で初めて学士号の授与権が付与された明治9年設立の札幌農学校の初代校長は調所広丈（薩摩藩士・調所広郷の三男、開拓少判官）である。一方、明治35年に「東北地方の状況から農業振興と技術革新、指導者の育成」を目的に設立した盛岡高等農林学校、明治41年「南方開拓」を目的に「あらたの地」に設立した鹿児島高等農林学校（以下、鹿高農とする）。この2校の校長は農学博士第一号である鹿児島出身の玉利喜造先生である。筆者は学生、教員として勤務した24年を含めた合計約46年、鹿高農時代からの遺構に関する多くの逸話、口伝を先輩から拝聞してきた最後の世代である・・・との想い、これらの遺構を「指定文化財」として、保存、活用する必要性を問答してきた。たまたま、昨夏、法文学部石田智子准教授から「鹿児島大学構内の歴史遺産」の開講の話が本同窓会に届いた。これを機会に、ぜひ鹿高農創世期の遺構を「（仮称）鹿児島大学研究博物館・植物園・あらた同窓会館等文化財群（構造物）」として市民に開かれた文化財としたい。以下に鹿高農に現存している遺構、文化遺産類は100年～90年経過しており、国の文化財として指定されてもおかしくない遺構6件を取り上げた。

①鹿児島大学総合研究博物館展示室（旧鹿高農図書館書庫）【設立から112年】

鹿高農講堂（明治44年11月竣工）は鹿大正門西側に創建された。太平洋戦争の爆撃では焼失を免れたこの書庫は、講堂の西側に図書館事務室および閲覧室と渡り廊下で接続されていた。この書庫は鹿児島大学で唯一の「国登録有形文化財（構造物、平成16年指定）」である。開学75周年記念行事で講堂の保存・活用を検討したが、シロアリ被害が大きくなり、経済的に断念した。

②農学部あらた同窓会記念館【建設から89年】

開学25周年記念事業（昭和9年）で、玉利池の西側に本館（西洋館、RW、昭和19年6月の鹿児島大空襲で焼失）、および別館（日本館、W）が創建された。当時の学生達は本館で洋食のテーブルマナーを学んだ。別館（和館）は本館の影にあった事から、奇跡的に焼失を免れた。昭和36年頃現在地に移設。開学第75周年記念行事（昭和59年）で解体、洗出し工事を実施した。建築資材は「ヤクスギ」と判明。全てヤクスギによる木造建築は国内唯一で100年に近い貴重な遺構である故、最低でも「国登録有形文化財（構造物）」に値すると考えている。同郷の故永留寛先輩（林科昭17卒）から、建設当時の由来や逸話を拝聞している。

③鹿児島大学植物園（旧林園、約1ha）【設置から112年】

明治42年鹿高農開設時に林科学生の樹木実習用に設置した植物園（旧呼称：林園）は、エングラの自然分類で配列された。昭和20年鹿児島大空襲で見本樹の大部分が焼失したが、戦後林科教員、学生達が戦後数年間かけて高隈演習林、南九州、南西諸島からの山取り苗を植栽した（故永留寛先輩口伝）。平成11～15年の整備で約300種の樹種を確認。図鑑「鹿児島大学植物園の樹木たち」を鹿大で発刊した。

④皇太子殿下（昭和天皇）行幸記念のイチョウ【植樹から88年】

イチョウ（雄雌異株）は雌木だけに毎年多くの実（ギンナン）をつけるため、子孫繁栄を願い、お手植え苗木50本を超える苗木から雌木を1本選抜した（故永留寛先輩から口伝）[昭和10（1935）年11月、お手植え]

⑤初代校長玉利喜造胸像【建立から98年】

明治45年整備した校門の車馬廻しのソテツ群（第1回得業生記念植樹）の西側に大正14年11月初代胸像を設置。胸像は太平洋戦争中金属類軍需物資供出等幾多の受難を被ったが、昭和22年当時の先輩諸氏の浄財により2代目胸像を再建・設置し、開学75周年記念行事で現在地に移動し、碑文を新設した。

⑥田ノ神舞像【建立から98年】

明治末から鹿高農で開催する新嘗祭の際の神舞の姿を彫刻した非常に珍しい田の神像を大正14年「布久思宮」の前に設置した。

学部長挨拶**退任のご挨拶**

農学部長 橋本 文雄

令和4年度・3月23日にご卒業・修了の皆様、誠におめでとうございます。また、鹿児島大学農学部卒業生および在校生のあらた同窓会会員の皆様、新年を迎え、恙なくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて私こと、この3月末をもちまして、任期満了により農学部長を退任いたします。平成31年4月からの4年度間に渡っているいろいろ大変お世話になりありがとうございました。この間の取り組み例について、掻い摘んで述べさせていただきます。

まず、平成27年度に開始した「地域連携ネットワークプロジェクト」の機能を全学で展開されることになった「社会共創イニシアティブ」へ移管いたしました。例えば、「薩摩黒膳」弁当の開発は、2019年全国お弁当・お惣菜のコンテストに於いて、優秀賞を受賞しております。この他、様々な分野において成果が上がり、「地域連携ネットワークプロジェクト」の目標の一つでありました、この分野における外部資金の獲得金額の実績は、開始当初から4年度間の総額に比べて、最終年度の令和元年度には4倍に大きく飛躍いたしました。

入試・教育制度改革や国際的に活躍のできる人材の育成については、農林水産学研究科においては湖南農業大学との協定が成立し、ダブルディグリーを開始いたしました。国際レベル研究の推進では、外部資金の獲得額を増やすこと、また、トップテン論文の掲載を目指すため、農学部研究推進委員会のワーキングを中心に検討を加え、先生方へ支援を進めて参りましたが、この間、一定の効果があり、比較的レベルの高いジャーナルへの掲載が増加しました。

附属施設における取り組み例について、附属農場・入来牧場では、令和3年8月に一般社団法人・日本草地畜産種子協会より「放牧畜産実践牧場認証」を取得し、加えて12月には「放牧畜産実践展示牧場」の承認を受けました。附属高隈演習林では、一般社団法人・緑の循環認証会議・日本PEFC認証管理団体へ「SGEC FM認証（森林認証）」を申請し、令和3年3月認証を取得しました。附属焼酎・発酵学教育研究センターでは、新潟大学日本酒学センター及び山梨大学附属ワイン科学研究センターの三者の間で協定を結び、三大学間での酒類に係る教育・研究、交流・人材育成、地域貢献と産学連携、国内外の機関等との連携を可能とし、日本国内の酒造に係る人材育成が大きく進展することが期待されます。

令和4年4月1日より農林環境科学科内に「スマート農学コース」が新設されました。これより一足早く、令和4年1月には農学部及び共同獣医学部の共同で申請しておりました文部科学省令和3年度の補正予算事業「次世代農獣医技術者養成のDX教育改革」について、文部科学省高等教育局長より「採択」の選定結果を受けました。これらの取り組みにより、デジタル化が進む産業分野をけん引する高度な専門人材の育成が可能となりました。

令和4年の夏には「高大接続科目等履修生」の事業：農学部の体験授業として、農学部の1年生向けの選択科目を高校生に夏休みの時期に開講させていただき多くの参加があり、入試による優秀な学生確保の一環として行っている取り組みの一つを実現しました。

このように、上述以外にも多くの取り組み例があり、令和3年2月の定例教授会において策定されました将来構想案に盛り込まれた項目はほぼ達成できました。

最後になりますが、この4月からは新しい執行部の体制で農学部がスタートします。新農学部長へご就任予定の寺岡行雄先生を中心にさらに躍進されますよう期待するところでございます。

在校生、卒業生・修了生の皆様には、まだまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見えないところではありますが、健康に過ごされますことを心よりお祈り申し上げます。そして、同窓会の皆様方のご協力をいただきたく、農学部の今後の取り組みに対して、その目標を達成すべくしっかりと取り組んで行きたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

次期学部長挨拶**コロナ禍を過ごした卒業生の皆さんへ**

次期農学部長 寺岡 行雄

農学部の卒業生、農林水産学研究科の修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。令和5年4月から農学部長に就任する農林環境科学科教授の寺岡です。就任前で少し早いのですが、ご卒業の皆さんにお祝いを申し上げたいと思います。また、全国でご活躍の同窓生の皆様、鹿児島大学農学部は大きな飛躍に向けて準備を進めております。今後ともご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、令和2年年頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、生活を含め社会が大きく変わりました。学部を卒業する皆さんは、大学1年生の終わりごろからインターネットを利用した授業に切り替わった時期にあたると思います。それまでManaba（教育支援システム）すら頻繁に利用することがなかったと思います。当たり前だった講義室での授業が、Zoomでのオンラインや課題資料による授業に変わりました。毎回の課題やレポートの作成に追われ、戸惑いも大きかったのではないのでしょうか。そのような変化を無事に乗り越えて、卒業される皆さんの努力に対して敬意を表し、改めてお祝いを送りたいと思います。

大学生活は、学部の友人、サークルやアルバイト先で出会う人など、様々な人との出会いと交流の場で繰り広げられます。残念ながら、コロナ禍はそのような交流の機会を大きく減らしてしまいました。さらに、常にマスクを付けているため表情が読み取りにくく、コミュニケーションを取るのも難しかったかもしれません。誰のせいでもなく、仕方がないといえばそれまでですが、皆さんの大切な学生時代がそのような状況下であったことは残念でなりません。5月以降はそのような状況が変わるようです。卒業後に社会に出て、どうぞ新しい環境で出会う人たちとの交流を楽しんで大きく成長して欲しいと思います。

皆さんが大学に入学し、卒業できるのも、保護者・ご家族の方の支えがあったからです。また、大学の教職員、友達、先輩・後輩からの支援も大きかったのではないのでしょうか。是非、感謝の気持ちを忘れないでください。社会に出てどんな人になるか、どのように生きてゆくのかが大切です。大学で学んだことをしっかりと活かして、社会に貢献していただきたいと思います。そのための実力が皆さんにはあると信じています。

最後に、鹿児島で学んだ皆さんに、西郷南洲翁遺訓から次の言葉を送りたいと思います。

「己を愛するは善からぬことの第一也。修業の出来ぬも、事の成らぬも、過ちを改むることの出来ぬも、功に伐り（こうにほこり）驕慢（きょうまん）の生ずるも、皆自ら愛するが為なれば、決して己れを愛せぬもの也」（現代語訳：自分のことを大事にし過ぎること。つまり、自分さえよければという心を持つことが良くないことの始まりだね。自分をいつまでもたっても鍛えられないこと、勉強やスポーツや友人関係がうまくいかないこと、そして自分を自慢すること、全てが自分を大事にし過ぎることから始まるんだ。決して自分勝手に行動してはいけないよ。（「西郷どんの教え」より））「自分のことだけ考える人になっていませんか」という教えです。

人は一人では生きてゆけません。必ず支えてくれる人がいます。最近では同窓会を敬遠する人もいますが、あらた同窓会の先輩はある意味で家族同様に皆さんに接してくれるでしょう。困ったときには相談しましょう。そのように受けた支援や助けを忘れず、次の後輩へ手を差し伸べてください。そうしたお互い様のつながりが、社会を良くしてゆくはずですよ。

卒業後も健康を大切に、周囲の方への感謝を忘れないで、前を向いて歩いて行ってください。鹿児島大学農学部で学んだ皆さんの飛躍と活躍を期待してやみません。

追悼文

荒井 啓先生を偲ぶ

鹿児島大学理事・副学長（企画・社会連携）

岩井 久
（農S 55 卒）

荒井 啓先生 61歳(2000年)

荒井啓先生は、昨年12月3日に鹿児島市で永眠されました。先生は昭和14年6月3日に大阪にお生まれになられ、昭和38年3月に大阪府立大学農学部農学科を卒業、44年3月に東京大学大学院農学研究科農業生物学専攻博士課程を修了した後、47年6月1日に文部教官として東京大学農学部助手に採用されました。その後本学農学部へ転任、48年10月16日に助教授、61年11月16日に教授に昇任され、平成17年3月31日に定年退職するまで、農学部における教育に尽力されました。11年7月1日から17年3月31日まで鹿児島大学評議員を務められたほか、13年4月1日から17年3月31日まで鹿児島大学大学院連合農学研究科長を務めるなど、鹿児島大学の運営面においても大きく貢献されました。

研究においては、植物病害の病原学的研究、組織解剖学的研究を中心に展開し、多くの病原体を同定されました。東京大学では、病原が不明であったジャガイモ葉巻病の原因ウイルスを世界に先駆けて電子顕微鏡下に捉え、それを分離し病原性を確認されました。本学に着任後は、主に南九州地域のチャをはじめ、サトウキビ、カンキツ、イネ、ツツジ、カナリーヤシなどの病原体を同定し、多くの新病害を記載されました。

その中で特筆すべき功績は、細菌病ならびにバクテリオファージに関する研究です。まず、先代の植原一雄教授（故人）、有村光生助手（農S30卒）ならびに県茶業試験場（当時）の野中壽之技師（農S36卒）などと協力して、県内に発生したチャの細菌病3種（てんぐ巣病、かいよう病、赤焼病）の病原細菌を分離・同定されました。チャてんぐ巣病は昭和30年に大隅半島で発見され、40年代中頃から急激に拡大した病害で、新梢基部が肥大、えい瘤化し、翌年そのこぶから多数の不定芽が出て、後に樹勢が衰えて枯死します。また、チャかいよう病は葉や枝にかさぶた（かいよう）を形成する病害で、昭和45年に鹿児島県で発見されたものです。先生らはこれら2つの病害の病原細菌のコロニーの性状・形態や種々の生理試験から、いずれも新種の細菌であることを明らかにされました。チャ赤焼病は大正年間に、関東から近畿地方にかけて大発生した病害であり、いったんは終息したかに思われていましたが、先生らは本病が昭和50年頃より薩摩半島南部に再発生したことを明らかにされました。さらに先生の発案で、赤焼病細菌に寄生する新ファージ2種を分離し、それぞれ *Pseudomonas theae* phage Φ （ファイ）1、 Φ 2と命名されました。ファージの研究は、元々医学において病気の治療に利用すべく発展したものであり、農業分野では未だ実用化はされていませんが、先生の研究は、植物細菌病の防除を目指した研究として、先駆的なものであったといえます。

学界にあっては、日本植物病理学会（評議員、九州部会長、賞選考委員、編集委員等）、日本菌学会、日本電子顕微鏡学会、九州病害虫研究会（評議員）などに所属し活躍されました。また、地域においては鹿児島県農業試験場・果樹試験場・茶業試験場、沖縄県農業試験場などとの共同研究を通じ、地域の農業振興に貢献されました。

以上のように、先生は昭和48年に着任以来、32年にわたり、教育・研究に専念されながら、本学の管理運営

と発展ならびに地域の発展に尽力されました。これら永年にわたる功績に対し、平成17年4月に鹿児島大学名誉教授の称号を授与され、30年4月には瑞宝中綬章を受章されています。

先生は趣味の世界も多彩で、テニス、将棋・碁・麻雀は元よりオーディオ装置の自作やクラシック音楽鑑賞など、研究室の学生は、以上のどれかにおいて、指導を受けたものです。特にオーディオ関係については、前述の植原教授とともにセミプロの実力で、独自に開発したエアフロート式のレコード用ターンテーブルは回転速度誤差を極限まで低めることに成功しており、雑誌「ラジオ技術」で詳しく紹介され、当時のソニーの盛田昭夫会長とも情報交換があったそうです。私も、指導を受けながらスピーカーボックスを作成し、後々ジャズの鑑賞で重宝しました。ご本人は「下手の横好き」と謙遜されていましたが、手先が大変ご器用で、亡くなる6年前に癌で倒れるまで、テニス仲間の工学部名誉教授の先生に誘われて開設した「おもちゃ病院」で、子供たちを相手に、修理をボランティアで請け負われ、新聞でも紹介されていました。

先生は物の無い時代に育てられたこともあり、古い機材の再利用にことのほか興味を持っておられ、さらに、実験に用いる器具や装置の手作りが得意でした。私が学生だった昭和50年代の研究室には、万力やドリル旋盤などの工具が備えてあって、必要な実験器具やオーディオ装置の作成に威力を発揮しました。それらの製作を通して、我々学生は種々の工具の使用に習熟することができ、今でも役に立っています。

荒井先生は、私にとって父であり兄のような存在でした。研究面では、荒井先生は糸状菌と細菌、私は植物ウイルスの研究と、住み分けていて、直接のご指導を受けることはあまりありませんでしたが、6年前の私の還暦記念パーティーでの先生の祝辞「岩井君は研究面では、大学院時代から今日まで誰かの影響を受けることなくずっと一人で進めてきた。恩師がないことが彼の強みである」を心に刻んでおります。私の性格をご理解の上での励ましのお言葉でした。私は既に4年前から大学本部での管理職に移り、研究から離れましたが、今の職責においても、先生から薫陶を受けた「創意工夫」の精神と「独自性」を堅持しつつ、職務を遂行していきたいと思っております。荒井先生、ありがとうございました。どうか安らかに眠りください。



最後の教え子たちと（2005年3月、研究室にて）

定年退職者等挨拶**定年退職を迎えて**

農業生産科学科 津田 勝男
(農S 55 卒)

私は、1997年8月1日付けで鹿児島大学農学部助教授として着任し、以後26年弱鹿児島大学教員として過ごしてきました。研究に関する思い出や業績等は鹿児島大学学術研究報告にまとめましたので、ここでは教員としての活動を振り返りたいと思います。

私は、1980年に鹿児島大学農学部農学科害虫学教室を卒業し、九州大学大学院生物的防除研究施設天敵微生物部門に進学、1985年に農学博士の学位を取得しました。その後、1986年に福岡県に就職しましたが、当初の農政部農政課での半月ほどの見習い期間以外は福岡県農業総合試験場での研究職員として過ごしました。ただし、園芸研究所果樹部常緑果樹研究室、生産環境研究所生物資源部微生物利用研究室、生産環境研究所病害虫部果樹病害虫研究室、企画経営部企画課と場内を転々としてきました。それなりの経験を積んで鹿児島大学教員になった訳ですが、着任当初はある心配事がありました。鹿児島大学への転任が決まった頃、既に鹿児島大学の教員であった、同級生の岩井 久君（現鹿児島大学理事）から「津田～、おまえ女の子の前で話（授業）とか出来るとや～」と心配する電話をいただきました。学生時代の私は、極度の女性恐怖症で女性と話が出来ないどころか近づくだけで顔が赤くなっていました。幸いにも学生時代の鹿児島大学農学部には女子学生は少なく、特に農学科には女子の同級生が居なかったこともあり、無事に？過ごすことが出来ました。そこで、鹿児島大学農学部の学生さんの大半は男子であろうと高をくくっておりましたが、彼から「最近は半数近くが女子である」と聞いて若干の危機感を抱きました。最初の講義の前はかなり緊張しましたが、何事もなく講義を終え、現在に至っております。

私は、国際協力農業体験講座の担当教員に参加し、タイ、ミャンマー、ベトナム、ラオスへ学生さん達を引率しました。本講座の目的は、「学生を実際に国際協力が行われている現地に連れて行き、体験することによって国際協力の在り方を考えてもらう」ことにあります。本講座の設立当初は農村を貧困から救うためにはどうしたらいいかという問題が大きく、そのために受け入れ先は何をすべきかという活動を展開していた訳です。政府間の国際協力は施設や資金、物を援助しますが、その援助が終わると何も残らないという事例が多くあります。一方、個人的な援助は資金に限りがありますので、ただ与えるだけでは持続きしません。活動を中止した後もやっていけるように自立を促す援助でなければなりません。そのためには、地元の人達と深く付き合っって本当に必要なのは何かということ把握することが重要です。引率と言っても渡航先で出会った方々からは学生さん達以上に多くのことを学ばせていただきました。特にタイコースは、北タイが抱える「山岳民族」、「エイズ」、「貧困」といった問題に取り組みされた故谷口巳三郎氏の生き様を学ぶ研修でした。80歳を超えても国際ボランティアの第一人者として現地指導に励んでおられた谷口氏には独特のオーラが感じられ、お会いする時は背筋がピンと伸びました。

一方、農学部内の活動としては鹿大農地域ネットワークプロジェクトの大島地域責任者として、奄美大島、徳之島、沖永良部島、喜界島において、それぞれ地域懇談会を開催しました。地域懇談会には多くの先生方が参加して地元の方々との意見交換を通じて知り合いになり、その後のいくつかの共同研究につながりました。私は、この活動以前から喜界島と徳之島のゴマダラカミキリの防除対策で地元の方々と深いお付き合いをしておりましたが、喜界島では一定の成果をあげて退職を迎えることが出来ました。この経緯の詳細は「島ミカンを救えー喜界島ゴマダラカミキリ撲滅大作戦ー（鹿児島大学島嶼研ブックレットNo.19）」をご参照ください。

26年弱の教員生活は、私にとって充実したものでした。これまでお世話になりました農学部およびあらた同窓会の関係者の皆様には心より感謝いたします。ありがとうございました。

阪神・淡路大震災から28年の歩み



農林環境科学科 枚田 邦宏

私が鹿児島大学に赴任したのは1995年1月、赴任後、すぐに阪神大震災が発生しました。なぜこのことを記憶しているかという、阪神・淡路大震災の時（1995年1月17日5時46分）に、京都の自宅から地下鉄の丸太町駅に向かって歩いていましたからです。それ以来、京都の自宅と鹿児島大学との間は、月に1-3回繰り返して行き来しながら生活をしてきました。当初、このような「通勤」生活、「出稼ぎ」生活が28年間続くとは想定していませんでしたが、鹿児島の居心地の良さ、研究分野である森林の多様な利用とそれに関わる多くの人々の活動があったため長居させていただきました。

鹿児島大学に赴任してから、森林経済・政策に関わる様々なことについて研究する機会を得ることができました。第一には、1993年に世界自然遺産に登録された屋久島の森林の存在です。前職の京都大学農学部附属演習林において森林レクリエーション利用者の調査をはじめていたこともあって、屋久島でのレク利用について調査をはじめました。屋久島の森林は、多様性に富むとともに、近世から屋久杉や天然広葉樹が利用されてきた地域であり、地元では木材に関わる仕事の従事者が大勢いました。しかし、1990年代以降は、木材生産は限定的なものになり、もっぱら森林レク利用が脚光をあびることになります。レク利用者の増加は、自然へのダメージを与えることにはなりますが、どの程度の人が利用しているかもわからない状態だったので利用人数調査を行い、さらに恒常的に利用人数を把握するシステムを開発、環境省の屋久島の出先で利用できるものとなりました。

第二には、人工林の森林資源成長と海外からの木材輸入が縮小する中、国内の森林資源を生産、利用するために、2006年から鹿児島県を対象に林業の新生産システム構築事業（林野庁）に関わりました。県内の林業、木材に関わる事業体、業界団体、鹿児島県庁の方々にお話を伺い、林業生産および木材加工との融合を進めてきました。私にとって、あるいは鹿児島大学の森林分野にとっては、地域の森林・木材との結びつきを持ちながら、研究するスタイルを得ることができ、後に農学部全体で地域連携プロジェクトを開始するきっかけを得ました。

第三には、林業界との関係が強くなっていくことにより、社会人に対する勉強の機会を大学が提供する必要性を感じるようになりました。単に、若者に森林・林業技術者の基礎的な事項を教育し、卒業論文等で教育研究だけでなく、実際に現場で活動している社会人に対して教育することが必要であると思い、文部科学省の学び直し事業に申請し、林業人材育成のリカレント教育を開始しました。

以上、鹿児島大学に来てから研究教育活動に取り組んできましたが、学内業務として各種委員会委員と並んで時間をかけた業務には、農学部の建物改修の取り組みWG委員があります。全部の建物の改修を進めるために、国のPFI事業の適用事業にしてもらい、2、3年間かけて現在の建物になりました。また、教授になってからは学生・就職支援担当の学長補佐として全学の管理業務の一端を担わせていただきました。

このような中で、鹿児島大学の将来を考える時に、社会との関係を強めること、とりわけ同窓会の皆様との関係を強め、農学部を盛り上げていくことが必要だと思えます。今後も大学と強く結びついたあらた会の発展を祈る次第です。

特別寄稿

郡元キャンパスの歴史をたどる

法文学部 准教授 石田 智子

鹿児島大学郡元キャンパスは全域が遺跡（鹿児島大学構内遺跡）で、地下には埋蔵文化財、地上にも大学の歴史を物語る石碑や石造物、銅像、記念樹などが多数残されています。みなさんはどこに何があるかご存知でしょうか。鹿児島大学では学生・教職員合わせて約12000人が日々を送っていますが、身近な歴史に目を向ける人はほとんどいないのではないのでしょうか。

大学生生活を過ごす場所への理解を深め、愛着をもつことを目的として、2022（令和4）年度前期の法文学部開講科目「考古学演習1b」において、郡元キャンパスに所在する歴史資料の調査成果をまとめたWebサイト「Time Travel Kadai」（<https://sites.google.com/view/timetravel-kadai/>）を作成しました。構内踏査、埋蔵文化財調査センターによる発掘調査で出土した遺物の調査、石造物や銅像の三次元計測（写真1）、文献調査、本学の歴史にかかわる活動をしている先生方へのインタビューなどを学生と分担して実施しました。意識して見てまわることで、キャンパスの様々な場所に歴史が潜んでいることが分かってきました。

特に、農学部エリアは歴史の宝庫です。鹿児島大学は1949（昭和24）年に新制大学として発足し、他学部は別の場所から移転してきましたが、農学部は前身の鹿児島高等農林学校の時から郡元キャンパスの場所にありました。大学に現存する最も古い建物は高農の図書館書庫（1928（昭和3）年建設、現在の総合研究博物館常設展示室）で、あらた記念会館（1934（昭和9）年建設）も残されています。キャンパス中央に位置する玉利池や植物園、正門前に群生する第一回得業記念樹（1912（明治45）年）のソテツ（写真2）などは、現在の景観を形づくっています。

発掘調査では、弥生時代の竪穴住居跡、古代～中世の河川、近世の水田、西南戦争の小銃弾が確認されています。共同獣医学部研究棟A地点は高農の食堂・賄所・配膳室に相当する場所であり、寄宿舎である「対岳寮」の食器が多量に出土しました。初代校長の玉利喜造像の台座には、アジア太平洋戦争の空襲で機銃掃射の銃弾が命中した痕跡が残っています（写真3）。先史時代から現代にわたる重層的な歴史を凝縮した空間です。農学部100周年記念展示室では出土遺物や文献資料を見学できます。

また、あらた同窓会が編集した『あらた七拾五年の歩み』には多くの貴重な文献資料が掲載されています。高農の学校行事や学生生活の写真からは、当時の生き生きとした様子が伝わってきます。総合研究博物館で保管されている得業論文や学生調査報告書を見ると、学生が真摯に学問と向き合う姿やレベルの高さが分かります。そして、「あらた同窓会会報」に寄せられた同窓生や教職員の思い出には、その時々の瑞々しい大学生活の記憶が詰まっています。

きちんと記録を残し、歴史を積み上げていくことは、簡単ではありません。「当たり前」や「日常」にかかわる物事ほど記録されず、気付いたら失っていることも多いです。これまで受け継いできた大切なものに、現在の情報を付け加えて、さらに未来につなぐ努力が必要です。目まぐるしく変化する日々ではありますが、少し立ち止まって、足元の歴史を振り返る余裕をもちたいものです。ぜひ郡元キャンパスの歴史を歩いて、見て、触れて、考えてみてください。世界の見方の解像度を上げることで、学び舎の違う姿が見えてくるでしょう。

きちんと記録を残し、歴史を積み上げていくことは、簡単ではありません。「当たり前」や「日常」にかかわる物事ほど記録されず、気付いたら失っていることも多いです。これまで受け継いできた大切なものに、現在の情報を付け加えて、さらに未来につなぐ努力が必要です。目まぐるしく変化する日々ではありますが、少し立ち止まって、足元の歴史を振り返る余裕をもちたいものです。ぜひ郡元キャンパスの歴史を歩いて、見て、触れて、考えてみてください。世界の見方の解像度を上げることで、学び舎の違う姿が見えてくるでしょう。



写真1 田の神舞像の三次元計測風景



写真2 農学部前のソテツ築山



写真3 玉利喜造像の三次元モデル



（参考）鹿児島高等農林学校校舎前面（鹿児島高等農林学校アルバム・あらた同窓会所蔵から）

南西諸島での新種ゴキブリの発見

農業生産科学科 准教授 坂巻 祥孝

学生時代は蛾の分類学の研究をしてきた。新種を見つけたり、学名を整理したりといった基礎的な研究である。しかし、1999年に鹿児島大学農学部助手として赴任することになって、鹿児島で農業に役に立つ害虫や天敵の研究をする心づもりだった。いざ赴任してみると、すぐに当時の研究室の教授から「多島研（現在の国際島嶼教育研究センター）でマイクロネシアに調査団を出すから参加してきなさい。」といわれて面食らった。調査団は水産学部の練習船「敬天丸」に1か月缶詰めで往復するのである。いざ、参加してみると法文学部、教育学部、工学部、水産学部、農学部、医学部、多島研の研究者がそれぞれの研究について毎日議論できたのである。この充実した船旅はとても感動的であった。そして、2005年5月に「宇治群島総合調査」で再びこのような機会に恵まれ、私は喜んで参加した。宇治島は無人島で農業は行われていないので、この調査では島に生息する昆虫種をできるだけたくさん記録してリストアップすることを目的とした。標高96mの灯台までの道を歩きながら、途中わき道にそれて、目につく虫や小動物を採集した。こうして、採集した中に一風変わった褐色の小さなゴキブリ幼虫数個体が含まれていた。触角が短く、途中数節が真っ白で、また、体の側面からは放射状に剛毛が伸びていた（図1左）。とても奇妙な幼虫の特徴から文献を調べたところ、ムカシゴキブリ科のルリゴキブリ属の幼虫と推測された。ルリゴキブリ属は、その名の通り成虫は瑠璃色の金属光沢をもつ美しいゴキブリで、それまでに国内では八重山諸島のルリゴキブリ1種しか記録がなく、900kmも離れた宇治群島に同じ種がいるかもしれないと思うと、驚きを抑えきれなかった。夏に宇治島に上陸して、成虫が採れれば大変美しいはずである。そう考え、同年8月に、同群島に向かう釣船に乗船し、もう一度宇治島を訪れた。そして、オスの成虫1頭を見つけることに成功した。間違えなく瑠璃色の光沢をもったルリゴキブリの仲間であったが、八重山諸島のルリゴキブリが瑠璃色一色なのにくらべ、宇治島のルリゴキブリは背中にオレンジ色の大きな斑点が3つあって、さらに美しく思われた（図1右）。そして、形態をつぶさに比較して八重山産の既知種ルリゴキブリとは別種であると判断された。

しかし、文献を調査するとこの宇治島産のルリゴキブリと同じような斑紋を持つ種が台湾と中国本土の福建省周辺にいとされており、これらとの比較をしないと種名（学名）が確定できない。中国本土の福建省産の近似種については中国側の標本持ち出し規制が厳しく、比較検討ができないまま13年が過ぎた。この間に知り合いから借り受けた標本から悪石島や奄美大島にも同じ特徴の種があり、さらに与那国島にはオレンジ色の斑紋がより薄い近縁な別種がいることが分かった。そして、2017年に中国の研究者が中国国内のルリゴキブリ属を取り纏める論文を発表した。そのおかげで、中国福建省の別種の情報が明らかとなり、宇治島で得られたルリゴキブリが新種になると判断できた。ちょうどこのころに、法政大学の島野智之教授、磐田市竜洋昆虫観察自然公園の柳澤静磨さんから「坂巻先生が報告しているルリゴキブリに強い興味があり、飼育もしているし、多数の標本ももっているの、共同研究をしたい」と問い合わせがあり、この3人で新種記載の作業を進めることとなった。新種記載の作法や英語での論文の書き方などを柳澤さんに指導しながらの共同作業となったが、分業がうまくできて、多領域のDNA配列の決定もできて、2020年11月に徳之島、奄美大島、悪石島、宇治島に分布するアカボシルリゴキブリと与那国島固有のウスオビルリゴキブリの新種記載が発表できた。宇治群島での初発見から15年間経ってしまった。

今回新種記載した2種のルリゴキブリは、甲虫のような瑠璃色の金属光沢をもち、オレンジ色の斑紋をもつため、外見が美しく発表当初から「ゴキブリとは思えない美しさ」と評判となり、多数のメディアで報道していただいた。

私は日常的には研究室の学生たちと、農業害虫とその天敵たちの関係および生態を研究して、農業だけに頼らない持続性のある害虫防除法の研究をしている。しかし、このように農業と直接関係ないゴキブリの新種記載ができたのは、鹿児島大学が学部や分野の垣根が低く、他学部の分類学者や学内の南西諸島の生物相の研究者たちと活発に交流できたからだと思う。本研究は国際島嶼研究センターのプロジェクトに始まり、その後、多数の学内の研究者に応援してもらって完結できた。研究、交流の自由が高度に保証され、学生・院生も含んだ研究者同士が垣根なく、活発に議論できることは鹿児島大学の強みであり、この強みを維持することが、本学の明るい未来に通ずるものと信じている。



図1 宇治島のアカボシルリゴキブリ(左：幼虫、右：成虫)

会員からの寄稿 (エッセーなど)

内田 昭さんを偲んで

近畿あらた会 渡辺 幸博 (獣S26卒)

内田さんが亡くなった。思い起こせば近畿あらた会総会の帰途、地下鉄京橋駅の出口前でビールを飲んで別れたのが、最後になった。その時にはとくに疲れた様子でもなく、そう年月も経ずによもや亡くなるなどとは思ひもよらなかった。



私は鹿児島大学農学部獣医学科では、内田さんの1年後輩である。大阪に出てきて1年程は、府の家畜保健衛生所に同僚として勤務しているとは気がつかなかった。



写真 在りし日の内田さん (中央)

その後、連絡がとれたこともあって、犬の病気に詳しい内田さんをお願いして、各種予防剤を世話していただくようになったのを特に覚えていて。

40歳の時私は関大の教員に転職したが、その後も若い時からの交友関係は変わることなく続き、あらた会の場だけでなくことあるごとに盃を酌み交わしてきたものである。

残念ながら今はただ合掌するのみである。



写真 近畿あらた会での内田さん (前列左から2人目)

離島種子島での高齢者、单身生活！ 島を楽しむには労力と時間がかかる (その1)

大分あらた会会長
永井 定明 (農S52卒)

大分から妻の故郷種子島へ、年間7か月程度单身生活を送っている。空き家の管理や農薬を使わない野菜や果樹栽培、生産物の一部を地元のトンミー市場(トンミーとは地元の方言で「友達」の意味)へ出荷、野沢菜や大根の漬物作り、たまに波止や地磯で魚釣り、更に料理、洗濯の家事などやる事は多い。現在私はフリーター、起きる時間も遅く、人との付き合いも薄い、特に何かをしなければならないということはない気まま暮らし、そんな私を地元の人は羨ましいと思うか、変わった人だと思うか、私自身はそんなことは気にせず、暖かい南国種子島で自由に「ゆるい人生」を送っている。

そんな暮らしで、まず基盤となるのは住まいである。今回家の修理の悪戦苦闘状況をレポートする。

住宅はコンクリづくりだが築後約60年、外壁にはひび割れ、ペランダの屋根はぼろぼろ、台所の



床に接着剤を塗る

床はブカブカの状態。こんなこともあろうかと事前に大工道具は揃え、大分から板材や柱、セメントや資材等調達し軽トラに積み込み、500kmはるばる海を渡り種子島へ運んだ。軽トラに様々な資材や棚や樹木、雑貨を雑多に積み込んだ姿はまるで夜逃げスタイル。たまたま同行した妻は、「こんな格好で一緒にホテルには入り



隅を合わせる



床板釘打



完成写真

たくない」と言い出し大変困った。理由は『巨人がキャンプで泊まることもあるという一流ホテルに軽トラで入るのは恥ずかしい』と言うことらしい。女性の見栄っ張りには男に理解しがたい、というようなことはあったが2日間の長旅で無事到着。苦勞をして運んだ資材を使って改修に取り掛かった。

1 フローリング

DIYの本やインターネットで調べ勉強しながら、にわか大工で床の修理に取り組んだ。キッチンや冷蔵庫を1人で移動させ、洗面所の隅の複雑な形状や最後に張る板を合わせるのに苦勞しながら、4日間かけ終了。初めての作業だったが結構出来栄えは良く、床が抜ける心配はなくなった。

2 ベランダの屋根の波板張替え

腰痛を抱える素人の私、能力を超える大仕事。朽ちかけているベランダの屋根の筋交いに立ってふらつく腰で踏ん張りながら、「落ちたら大怪我」をしないよう、集中力を切らさず古い波板を取り外していく。新しい波板を這いつくばりながら張って釘を打ち付けていく。

若ければ楽しめることもあろうが高齢者、余裕は全くなく膝が笑う。まあ何とか落下せず2日間作業は無事終了。屋根の雨漏りは止まった。



破れた波板



波板剥ぎ

3 倉庫を軽トラ車庫へ改造

お楽しみ園芸をするには軽トラが必要、中古を購入したが南種子町の古屋には車庫がない。海沿いでもあり、潮風が舞うこの地でほとんどの車が見事に錆びて走っている。特に車庫のない雨ざらしの車はなおさら傷みが早く、年金生活者にはとても再び購入する余裕はない。そんなことから狭い倉庫を車庫に改造することにした。

まず、倉庫の桁が落ちないように中柱を建て足元をコンクリで固めて、傷んでいた外側の柱には新しい角材を継ぎ補強し、入り口の外壁板を恐る恐る外し一応ギリギリ車を入れられる間口を確保。扉は使わなくなった戸板を活用、波板で灯りが入るよう工夫し観音開きの扉を設置して、1週間以上かかりやっ

と車庫が完成した。夜遅くまで作業をしたので、隣人が心配し何度も進み具合を見に来るなど近所迷惑な車庫づくりとなってしまった。

こんな状況では、夢見ていた「お楽しみ園芸」への道は遠い。若い時と違い高齢者は体が動かない、別荘（古屋）でゆっくりした生活を描いていたが甘い考えは見事に砕かれた。古屋の改修に時間を取られ「お楽しみ園芸」の取り組みも遅れてしまったが、残された自分の人生急がずにのんびりゆくりと過ごしたい。



改造前倉庫



中柱設置



扉を設置



壁板を外す



柱を継ぐ



車庫完成

4 種子島の風土は魅力的

時に嵐もあるが心地よい潮風、長く広がる美しい白い砂浜、ロケットの打ち上げ、自然にはバナナ、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ、安納芋、サトウキビ畑など内地にはない情景の中にじっと浸かっていると、溜まっていた不安や不満が溶けて心が癒されていく、ここ種子島にはそんな力があると思う。

色々苦勞はあるが家のメンテナンスと共に本来の「お楽しみ農園」を楽しんでいきたい。

例年半年以上種子島に滞在しているの



宇宙技術展示館



屋久島眺望

で、種子島事情や家庭園芸の状況をお知らせできればと思う。

種子島生活の様子は、アメンバーブログの「さーちゃんの気ままな日記」に掲載していますのでご覧いただければ幸いです。



種子島の永井農園（左：バナナ、右：パパイヤ）

果樹教室卒業生 佐賀で頑張っています

佐賀あらた会 太田 政隆（園S62卒）

佐賀県在住の果樹園芸学教室の卒業生を紹介します。

S56卒の光山先輩は県庁で農政畑を歩まれ、果樹試験場長を務められました。果樹教室とあらた会の大先輩で大変お世話になっています。

S59卒の新堂先輩（佐賀あらた会会長）は、カンキツの試験研究に長年取り組まれてきました。退職後も再任用で果樹試験場に勤務されています。開発された「温州みかんの根域制限栽培」は、兩年でも品質の良いみかんを生産できる技術で、国の果樹支援対策の支援対象になっており全国から視察が来られます。

H19卒の小熊（旧姓石本）さんは、本県で育成し2021年にデビューした中晩生かんきつ佐賀果試35号（にじゅうまる）の高品質果安定生産技術の開発に取り組んでいます。昨年、土壌にリン酸とカリが過剰に含まれる温州みかん園では10年間は両成分を施用しなくても収量や果実品質に影響が無いことを実証し、肥料が高騰する中、注目を集める技術として日本農業新聞等で大きく取り上げられました。

H28卒の加茂さんは、日本一のハウスみかん産地である唐津で若手後継者として頑張っています。ハウスミカンを中心に中晩柑、露地みかん栽培に取り組みされており、果樹関係者で知らない人はいない篤農家です。「にじゅうまる」についてもモデル農家として普及に貢献されています。

私は果樹試験場で落葉果樹を担当し、普及、農大等を経て試験場に戻り現在5年目です。大学時代は農作業や調査をやった後、岩堀・富永両先生とビールや焼酎を飲んだことが良い思い出です。果樹教室で両先生に教わったことが今の仕事にとっても役に立っており、本当に良かったと感謝しています。



温州ミカンの根域制限栽培

コロナ禍の前と今で変わったこと

長崎あらた会 高田 裕司（生環H5年卒）

長崎あらた会は、毎年総会を開催し、交流を深めていましたが、コロナ禍になってからこの3年間は残念ながら開催ができていません。コロナの心配がなくなったとき、ま



た皆さんにお会いしたいと思っています。

さて、コロナ禍の3年間で私たちの生活様式が大きく変わったように、仕事のあり方も大きく様変わりしています。そこで、今回の報告では、この3年間で私たちの職場にどのような変化があったかを伝えたいと思います。

現在、私は長崎県農林技術開発センターに勤務しており、病害虫防除に関する研究を行っています。私自身、コロナ禍以前から、そこまで多くの人と会って仕事をしていただけではありませんが、それでも同僚、関係機関、他県の研究員、メーカー職員

など、直接会って気軽に情報交換をしながら仕事をすすめていました。しかし、新型コロナウイルス感染症がまん延してから、人と会うことがタブーになった期間に、すでに整備されていた県庁内ネットワークが威力を発揮することになりました。そうです、「ZOOM」「Teams」「Skype」といったWEB会議システムの台頭です。これらの存在は知っていましたが、パソコンを用いて多くの人が同時に会議を開くことができることや、しかも、だれでも会議の主催者になれることなど露知らず。さらに、ショックなことに、気づいた時にはそれが会議スタイルの主流になっていて、みんなが当たり前のようにシステムを操作しているのです。取り残された私はパソコン画面操作のやり方をWEB会議中に聞くこともできず、隣にいる若い研究員に聞きながら、最近ようやく慣れてきたところです（まだ主催者になったことはありません）。さらに、残念なことに、以前は会議中には聞きづらい質問でも、会議の休憩時間に質問して情報収集していましたが、そういったこともWEB会議の中ではできる雰囲気ではな

いので（チャット機能を使えば、特定の人と画面上の文字で会話はできるそうですが）、今も試行錯誤しながらWEB会議に馴染めるように頑張っているところです。

しかし、最近はWEB会議が自分にとって悪いことばかりではないと思えてきました。それは、移動時間など参加にかかる時間を気にしないで済むので、遠くの開催地で行われるシンポジウムなどに数多く参加することができ、新しい情報に触れあう機会も増えたことは間違いありません。

大事なことは、この時代の流れに早く慣れていく意識・感覚だと思えるようにしています。今やWEB会議に限らず、コロナワクチン接種予約など行政サービス、JR・高速バスの予約など、インターネットが利用できる環境を整備しないと社会生活がままならない状況になっています。この社会変化についていくのは中々簡単なことではありませんが、分からないことは口コミなど人と人のコミュニケーションに頼るしかないのです。そこはこれまで以上に人間関係を大事にしていこうと思うようになりました。

社会人4年目、 これまでを振り返って

熊本あらた会 加藤 文俊（生産H30卒）

私が鹿児島大学を卒業し、今年で4年になりました。今回、寄稿させていただく機会を頂いたので、大学時代からこれまでのことについて書かせていただきます。



私は平成30年3月に農学部を卒業し、大学院へ進学しましたが、熊本県庁への入庁が決まったため、平成31年3月に大学院を中退し熊本県に入庁しました。

大学には5年間いましたが、1年生から3年生までは部活動で始めたボートに打ち込む日々でした。入部当初は先輩が2名しかおらず、2年生の時には6名だけで活動していました。加えて、同期は全員初心者だったため、大会には出場しましたが良い結果は残せませんでした。それでも、仲間と一緒に練習に励み、熱中した時間は良い思い出になっています。

3年生からは観賞園芸学研究室に在籍し、トルコ

ギキョウの育種に取り組み、充実した3年間を過ごしました。当時は「花」の研究ではなく「育種」の研究に興味がありましたが、トルコギキョウなどの花を研究で扱う中で、花が身近にある生活に魅力を感じ、仕事でも花に関わることを、と考えるようになりました。そのような思いから、入庁する際の希望担当品目に「花き」と書いたことを今でも覚えています。そして、幸いなことに初任地の菊池地域では花きの普及指導員として働くこととなり、昨年の4月からは現在の天草地域で花きの普及指導業務にあたっています。

大学の研究室で花を扱っていた私ですが、仕事を始めてからは1から学び直しの日々でした。生産者の方に技術指導をするのはとても緊張するもので、今でも教えてもらうことが多い日々です。また、仕事に慣れないうちは失敗も多く、1年目は落ち込むことも多くありました。それでも今、この仕事を続けられているのは職場の上司や同期の支えがあったからだと思えます。

就職して4年が経ちましたが、今でも大学時代の知り合いとの交流は続いており、年末年始には友人や研究室の先輩方と久しぶりに会い、部活や研究室での思い出話、それぞれの近況についての話で大いに盛り上がっています。こうして大学時代の知り合いと卒業してからも交流することができていることはとても幸せなことだと感じるとともに、これから

もこのつながりを大切にしていきたいと思います。
最後に、まだコロナ禍で以前のように生活できていない部分はありますが、これまで出会った、そし

てこれから出会う人とのつながりを大切に、仕事もプライベートも充実したものにしていきたいと思っています。

「鹿児島支部の活動紹介」 ～「With コロナでの活動」～

鹿児島支部 常任幹事
鯨坂 明彦 (園 S57卒)

皆様、毎日のお仕事や学習・研究など、おつかれ様です。

本職は、令和3～4年度(令和3年10月～令和5年1月現在)鹿児島支部の常任幹事を務めており、(公社)鹿児島県農業・農村振興協会に勤務しています。

2020年から22年、コロナ禍で生活すべてが「新しい様式」での3年間が過ぎました。何回かの変異株流行、「自粛」の名の元での「行動制限」。仕事はもちろんのこと、様々な制約で同窓会の活動も3年間、足踏み状態だったことから、活動の取り組みやその報告がなかなか難しいことを痛感しています。

同窓会の令和3年度から4年度(令和3年10月～4年12月現在)の活動について紹介します。

1. 支部総会について

令和2年度を含む3年間、総会を対面では開催できませんでした。総会時のボウリング大会や懇談の場を楽しみにされている先輩方をはじめ、会員各位から「残念!・・・の一言」や「コロナが収束したら、ぜひ開催を!」などのご意見をいただきました。

「幹事会をもって総会に替える」で開催とした、コロナ禍の事態ですが、3年もの対面開催中止という空白となりました。また、支部活動に対する感謝の一環として、令和4年11月に鹿児島支部会員の方々に文房具(名入りのシャープペンシル)をお送りしたところでした。

「総会の記念品」の位置付けでした。会員の方からお礼の連絡などをいただき、幹事一同ありがたく思っています。

2. 幹事会について

3年度、4年度とも幹事の皆さま方は、メール及び電話での幹事会が中心でしたが、総会の打ち合わせや会計監査など幅広く活動にご協力いただきました。

本職については、業務の休みを活用。「個別訪問」のような形で一部の幹事さんの職場に立ち寄りさせてもらいました。その際には活動全般についてのご意見を直接伺えた、大変良い機会であると感じました。

短時間の立ち話を中心でしたが、「職場のルール遵守の観点で、今年度の対面総会は難しいが次年度の開催に期待!」など、会員の意見集約結果について直接聞き取りができました。

3. 次年度の活動に向けて

同窓会本部は、令和4年11月23日にコロナ対策を実施のうえで、総会を開催。支部の幹事数名も本部「評議員」の立場で参加しました。会場は数百名が収容可能ですが、人数を限っての開催で、事業報告や先輩方からのご意見や所感をお伺いできた機会。やはり対面での開催は貴重なふれあいの場です。

令和4年度の支部総会は、今年10月に計画しています。幹事会などを通じて各会員のご意見を伺いながら、何らかの形で対面で開催することができれば幸いです。

最後になりましたが、同窓会各員の皆様方が自由に集える日が一日も早く訪れますよう、ご健勝をお祈りして支部の活動紹介に代えたいと思います。



支部活動に対する感謝の一環として、令和4年11月に鹿児島支部会員の方々に送った鹿児島支部名入りのシャープペンシル

そこに大義はあるのか？

会計監査委員 菊川 明（農S48卒）

第一線の仕事から退いて、朝はゆっくりと起き、朝食を食べながら新聞を見るのが日課になった。新聞記事を読みながら、「これは、どういうことだろう」「どうしたら良かったのだろう」と考えることも多い。



特にロシアのウクライナ侵攻について考えることが多い。当初は短期間で終了すると思われたが、予想に反してウクライナは抵抗を続け、一部の地域でロシア軍を撃退するなど健闘している。プーチン大統領にとっては大きな誤算だったと思う。

2023年1月26日の南日本新聞に、「森喜朗元首相がロシアのウクライナ侵攻を巡り、日本政府の対応を『こんなにウクライナに力を入れてしまって良いのか。ロシアが負けることは、まず考えられない』と述べた。岸田文雄首相はロシアのウクライナ侵攻について『不当かつ残虐な侵略戦争』と非難している」という主旨の記事が掲載されていた。

森元首相は2022年11月の鈴木宗男参院議員のパーティーでも、あいさつの中で「ウクライナ人を苦しめた」と、ゼレンスキー大統領を非難している。

確かに、ウクライナ人は苦しんでいる。ゼレンスキー大統領にも、その責任の一部はあるのかもしれない。NATOへの加盟を急ぎすぎたのかもしれない。ロシアが侵攻してきたときに抵抗せず、さっさと西側の国に亡命し、ウクライナにロシアの傀儡政権が樹立されれば戦争は起こらなかったかもしれない。ただし、そうなったときウクライナに真の平和が訪れるか、疑問である。例えば、ナチス占領下のフランス、若しくは将来、併合されて中国の新疆ウイグル自治区、チベット自治区みたいになる可能性もある。そうなると激しい抵抗運動が起きるかもしれない。結果としてウクライナ人の苦悩は続くと思われる。

ロシアのウクライナ侵攻に対してゼレンスキー大

統領は、どういう行動をとるべきだったのか、日本政府はどのような対応をすべきなのか、森元首相の真意を聞きたい。

また、この問題の解決策はあるのか。ゼレンスキー大統領もプーチン大統領も負けは絶対に認められないから、両者ともに敗者にならない解決策はないのか。

こんな話を高校の同級生の、I君にしたら「森元首相の真意は分からないが、和平については新渡戸裁定がヒントになるかもしれない」と教えてくれた。

旧5千円札の肖像の新渡戸稲造は国際連盟の事務次長時代にスウェーデンとフィンランドの領土問題を解決している。（詳しくはネットで調べてください）

いずれにしろ、日本の国益も考えながら大義のある方を応援すべきとも思う。

それよりも、目の前の問題は町内会の役員選出である。役員を引き受けてくれる人がいない。役員を選出には不文律のルール（慣習）があり、これまではそのルールに従って選出されてきた。ところが、今回、役員候補者（これまで役員経験がない人）が「役員をさせられるのなら町内会を脱退する」と言い始めた。困ってしまった現在の役員から相談を受け、仕方ないので、役員経験はあるが、来期の役員を引き受けることにした。しかし、今度は近所の人から「なぜルールを守らないのか、1度ルールを破ると次からは誰もルールを守らなくなり役員選出がもっと難しくなる」と非難された。

私は、町内会の役員は、やれる人がやれば良いと思っている。ルールにとらわれると仕事を持ち時間的にも余裕のない人が無理して引き受けざるを得なくなる。現状はすでにそうなっている。私のような退職して暇を持て余している人がボランティアであれば良いと思っている。

どちらにも大義(?)はあるのかもしれない。

国際政治と同様、世の中にはいろいろな考え方を持っている人が多いので難しい。

ただ、73年間、戦争に行くことも戦禍を受けることもなく、エアコンの効いた暖かい部屋の中で町内会の役員選出ぐらいが問題となっている現状の幸せを感じている。



カライモ（サツマイモ）から 鹿児島大学農学部への大きな期待

瀧川（旧姓犬童）憲洋
（農S52卒）



定年退職後、シンポジウムや講演会、造士館講座等でしばしば母校鹿大を訪れ、時間があれば大学図書館や稲盛記念館、インフォメーションセンター、学内書店に立ち寄りたり、植物園（林園）や農場を散策しています。また「鹿大ジャーナル」も毎号閲覧し、農学部はじめ鹿大の最近の情報を興味深く得ております。きっと学生時代より、鹿大について愛着心と関心が増しているかもしれません。

ところで農林水産省は過日2022年産サツマイモの収穫量を発表し、鹿児島県は前年比10%増で辛うじて全国トップを維持しております。これは県内で蔓延拡大していたサツマイモ基腐病に対して県の防除実証実験や生産農家はじめ関係者による防除徹底の賜物であると敬意を表したいと思います。圃場での早期発見対策にDXの活用その他、焼酎の原料となるコガネセンガンの代替品種として農研機構より基腐病に対する高抵抗性品種「みちしづく」が開発された

ことの報道もなされております。まだまだ課題解決が必要と思われるサツマイモ基腐病、鹿児島県基幹作物「カライモ（サツマイモ）」の一大事の今こそ鹿大農学部の持つ植物育種学や植物病理学等の知見が大いに役に立つ時ではないでしょうか？鹿大の大学憲章には「地域と共に社会の発展に貢献する総合大学」と提唱され、さらに農学部地域連携ネットワークプロジェクトでは「地域課題を抽出する」ことが提唱されています。



鹿大農学部附属農場訪問
（左端：村田さん、中央：北野さん、右端：筆者）

古来より“救荒作物”といわれるサツマイモは痩せた土地でも栽培可能で世界的食料危機にも寄与できる、さらには高機能食品として健康医療産業にも貢献が期待される持続可能な作物です。

幸い鹿大は9学部9大学院を擁する規模の大きい総合大学であります。農学部内のみならず他学部との横断的プロジェクト研究も可能だと考えます。進取の精神とグローバル視点からの研究がさらに促進されることを卒業生の一人として大いに期待するところです。

30年を振り返って

鹿児島あらた会 今給黎 征郎（農化H4卒）



私はH4年3月に農芸化学科（肥料）を卒業し、4月から栗野農業改良普及所に配属された。試験研究を希望していたので戸惑った。鹿児島市内のように住宅は少なく、先輩が1戸建ての家を確保して下さった。普及員という仕事は知っていたが、初出勤したら花の担当と言われた。さらに戸惑ったが、結果的にこの瞬間から30年以上花に携わることになった。当時は年の近い先輩方が多く、なんでも相談でき楽しかった。初任地（3年）では、無我夢中で仕事を覚え、2か所目の川内でも花担当として過ごしていた矢

先、2年目の終わりに離島勤務（徳之島普及所）を命ぜられた。また戸惑った。しかし徳之島に行ったことは後で大きな財産になった。花の大産地ではなかったが、となりに沖永良部島という日本有数の花の島があり、何度も勉強に行った。この徳之島では時間もおり、いろんな体験ができた。今考えると、花の技術員として大きく成長した気がする。2年目に普及員ヨーロッパ研修（2週間）にも参加できた。当時研修メンバーに推薦してくれた所長には今でも感謝している。

3年過ごし、次の勤務地には試験研究を希望した。当時、農業試験場花き部はキクの研究で成果を出しており、自分も力を試してみたかった。幸い、農業試験場花き部に決まった。徳之島在任中に結婚し、子どもも授かった。仕事もプライベートも充実していた。花き部では、ベテラン（N先輩）研究員を追い出して、私が配属されたことから、「戦力ダウン」という声も聞こえ、とても悔しかった。これが私のやる気に火をつけた。花き部ではキクの育種

や栽培試験を担当し、大忙しの日々を送った。自分で育種は天職だと感じた。なぜなら、多くの株の中からお宝を探すのが得意だった。理由は分からないが、小さい頃から「間違い探し」のクイズを好んでやっていたからだろうか？花き部（第1期）の最大の成果は、脇芽の少ない輪ギク「新神（あらじん）」の発見だ。この品種は品種登録され、県内に広く普及し、初めて県外許諾も行われた。20年たった今でも、農家が栽培しているのをみると嬉しくなる。試験場で6年勤務し、次の始良農業改良普及センター（4年）では、試験場で得た知識や経験をフルに発揮して仕事ができる。その後県庁の都市緑化フェア推進室（1年3か月）では、50年に一度の花博の担当となり、吉野公園を舞台に、県と市職員が一緒になり開催準備を行った。しかし開幕1週前の3.11にあの大惨事が起こった。吉野公園のプレハブ事務所でテレビに写る光景に愕然とした。イベントは予定通り3.18～5.22まで開催されたが、植樹祭への皇室参加は見送られ残念だった。平成23年7月か

ら農業開発総合センター花き部に再び勤務することになった。じつは、第1期の花き部時代は、あまりの激務で体調を崩し、6年で異動希望を書いていた。第2期の花き部では、テッポウユリの育種やキクの栽培研究（公募型事業）などを担当した。花き部はH30年4月に金峰地区の本所に移転し、果樹・花き部花き研究室となった。第2期の最大の成果は、テッポウユリ初の八重咲き品種「咲八姫」の育成だ。偶発的に出てきた品種だが、根気強く交配し、たくさんの株の中から見つけだした（引きが強い?）。「咲八姫」は2022年のフラワーオブサイヤーに選ばれ、感激した。第2期の研究生活は11年経過し、今は室長として研究室をサポートしている。私の花への関わりは偶然、栗野で始まり31年続いている。このことは誰も予想できなかった。ただ、小学校の卒業文集には、将来なりたい職業に「農業、漫画家、公務員」と書いてあったのは笑った。

学 生 便 り（卒業・修了にあたって）



やりきった大学生活

農林水産学研究科 農林資源科学専攻 応用植物科学コース

果樹園芸学研究室 修士2年

宇都 量子

私の大学生活の中で欠かせないのはサークルです。中学・高校で合唱を続けてきた私は、大学では運動系サークルに入りたいと思っていましたが、いざアカペラの演奏を目の前にすると、合唱とは違った魅力と迫力に圧倒されて入部を決意しました。楽譜を一から作る楽しさや、1人1人の違う音が重なってハモる楽しさを体感しました。大学2年生では部長を務め、大人数をまとめる難しさや先読みをする大切さなど、中高とは違った部長の責任というものを知りました。抱えきれない責任の重さに泣いた日もありましたが、一緒に乗り越えようと励まして支えてくれる同期のおかげで、幹部の役目を無事に果たすことができました。コロナがまだ収束していなくても卒業ライブを開催できたのは、周囲の

方々のご理解やご協力があったのことはもちろんですが、お互いを思いやり、サークルを大切に考えてくれる同期に囲まれていたからだと思います。大学院に進学しても後輩に誘われてアカペラを最後まで楽しむことができ、とても充実していました。

また、研究室ではアボカドの挿し木実験を行いました。遠地での調査を毎月3回行いましたが、その度に同行してくださった先生にとっても感謝しています。実験は同じ手順の繰り返しであることも多いですが、データが少しずつ得られることが楽しかったりもします。「私＝アボカド」というイメージが、友人間でもアルバイト先でも定着しているくらいにアボカドに向き合ったと自信を持って言えます。

多くのことが自己責任になった大学生活で、どんなことにも全力で真剣に向き合ったからこそ、全てが思い出になったのではないかと思います。この先どんな環境でもまずはやりきることに、そして周囲への感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命に向き合っていきたいと思っています。



吹奏楽漬けの4年間

農業生産科学科 食料農業経済学コース
農業経済学研究室 学部4年

久保 りさ

私の4年間の大学生活を振り返ってみると、吹奏楽の存在はとても大きかったと実感しています。

私は中学生の頃に吹奏楽を始め、10年目になります。大学入学時は、正直、何か違うことを始めようと他のサークル等への所属を考えていました。結果として、吹奏楽団の先輩に勧誘を受けた私は吹奏楽団への入団を決めました。しかし、今となっては吹奏楽をやっていない大学生活が想像できないほど、充実した日々を送ることが出来たと思っています。

吹奏楽団は、基本、週に4日練習があり、サークルの練習量としては多いと感じる方もいると思いますが、毎日長時間練習をしていた中高の部活に比べると、練習時間も圧倒的に少なく、自分の技量の低下を感じることも多くありました。悔しい思いをすることもありましたが、それでも吹奏楽というのは絶対に一人でできるものではないし、誰かと一緒に曲を完成させる喜びを実感できたことは何事にも代えがたいと思っています。

私がパートリーダーを務めていた時期は、「楽しく音楽をしたい人」や「上位大会への出場を目指したい人」それぞれが存在しているように感じられ、悩むことがありました。また、コロナ禍でもあったため、様々な行事や演奏会の中止を判断する立場になりつらい時期も経験しました。しかし、新たな活動の方向性を模索できたという意味では、とてもいい経験でもあったと思います。

人に恵まれ、環境に恵まれ、4年間で意味のあるものとして過ごすことが出来たことに改めて感謝しています。私の人生をとっても充実したものにさせてくれている吹奏楽は、これからも続けていけたらと強く思っています。

これまで、私と出会い、関わってくれた皆さん本当にありがとうございます。



私の分岐点

食料生命科学科 焼酎発酵・微生物科学コース
醸造微生物学研究室 学部4年

川畑 茉那

ちょっとだけ自分を前に進められた学生生活でした。

私は入学当初、お隣の水産学部にも所属していました。水産学部での授業も楽しかったのですが、学校に通いながら「何かが違う気がする」とモヤモヤした気持ちを抱いて1年間過ごしていました。そんな折に世の中がコロナ禍に突入して時間ができたので、自分の進路について考えてみました。水産学部に進学しなければ私はどの道に進んでいだろう、と人生の分岐点のやり直しをするような気分で、半年間悩みに悩んで決めたのが、農学部への転学部です。進路を選んだ高校生時代、もっとさかのぼって私の生い立ちを顧みたとき、私が興味を持っているのは地元鹿児島のことでした。それから、地元の代表的な産業のひとつであり、小さなころから身近にあった焼酎について学びたいという気持ちに至りました。

農学部へ籍を移し、1・2年生と一緒に授業を履修したり、3・4年生の進んだ内容についていけなかったり、少し大変なことも多かったです。今のところ転学部してよかったと思っています。その理由は、自分から行動することの重要性を知れたからです。当時は本当に転学部できるのか半信半疑でしたが、思い切って学生係の方に聞いてみたことから、自分の希望を実現させることができました。「○○だったらいいのにな」で完結させてしまうことが多かった自分を少し変えることができた出来事になりました。

私は今のところとてもラッキーな人間なので、転学部もさせてもらえて、今もよい環境に恵まれています。次の春から迎える社会人生活はきつとうまくいくことばかりではないと思います。期待が大きい分、不安も相応の大きさになっています。後から振り返った時に再選択した分岐点が正解だったと胸を張って言えるよう、自分から行動できる人間でいようと思います。



鹿児島大学での日々

国際食料資源学特別コース
食品保蔵学研究室 学部4年

藏元 理彩

私の鹿児島大学での忘れられない4年間の日々を一部ご紹介します。

第一に、講義や卒論研究です。私は国際食料資源学特別コースの学生として入学し、農学に加え水産学の講義を多々受講しました。専門科目の受講や発表を英語で行う機会も多く、語学力向上という目標を掲げる機会となりました。研究室配属後は、卒論研究のため、日々実験を行いました。先生や先輩方に御指導や御助言をいただき、新たな知識や実験技術が身につくことは非常に心が弾む思いでした。

第二に、海外研修です。私は、幼い頃から海外に興味があり、大学4年間のうちに多くの世界の国々に行くことが目標でした。しかし、世界的な新型コロナウイルス感染症流行により、海外への移動が制限され、思い通りに海外に行くことができませんでした。4年次に、漸く移動制限が緩和され、フードセーフティを学ぶため、タイで行われた海外研修に参加しました。現地の先生方や学生とは英語での会話でしたが、初めてのタイ語や食事、街並みの全てが新鮮で刺激的で、やはり私は海外の様々な場所で色々なことを体験し、感じたいと思いました。

第三に、サークル活動です。私は、小学生の頃からダンスをしており、ダンスは人と人を繋ぐツールの1つであると思います。踊るのが好きな人が集まるだけで、性別や年齢、国籍に係わらず親睦を深めることができ、踊ったことのない人にも感動を与えることができます。実際に、大学内だけでなく、多くの社会人の方や県外の学生と繋がることができました。ダンスだけではなく多くのことを教えてくださった先輩方、共に高め合った友達、慕い続けてくれる後輩達は私にとってかけがえのない存在です。

最後に、沢山の御指導をいただいた先生方、いつも一番に応援し、支えてくれた家族、4年間で出会った友人に深く感謝いたします。



4年間を振り返って

農林環境科学科 地域環境システム学
環境情報システム学研究室 学部4年

宮川 積喜

地元から鹿児島へ移り4年、卒業間近となりました。慣れない一人暮らしと大学の自由な学び方から、自由と責任感を存分に味わった4年間になったと感じています。

大学進学までは地元の埼玉から出ることもバイトをしたこともなかった私ですが、大学生活の中で自らの力で何とかしなければいけない場面に出会うことが多く知識面だけでなく精神面との両面で成長させてもらったと感じています。大学では勉強をやるもやらないも、遊びに出るも出ないも自分で選択することが出来、していく必要がありました。また、コロナ禍ではさらに、複雑な選択をする必要に迫られました。そんな生活から自ら考え行動することが増えたように感じます。もちろん、友人から得た刺激を基にしたものや一緒に決めた選択もありましたが、それでも自分で考える機会は増えたと感じています。間違った選択をしてしまうことも多かったですが、それまでの与えられたものをこなす生活では得られなかった体験や興味を自ら得ることにつながり、結果的に充実した4年間を過ごすことができました。一方で、自分だけではどうにも力不足な出来事に対することで、自分でやれることの限界を知り、周囲からのサポートのありがたみ、大きさを痛感しました。特に4年の卒業研究では就職活動と重なり周囲に負担を強いることも多くなってしまいました。助けてもらった分、得た経験を無駄なく活かすことで恩返しとしていきたいと考えています。

4月からは就職し本格的に社会とも関わるようになります。大学で得た知識や責任感はもちろんのこと、社会人としての義務も必要とされると感じています。今までよりも更に考えることが増えると思いますが、大学で学んだことを忘れずに過ごしていきたいと思っています。



北海道勤務になりました

農林環境科学科 森林科学コース

森林保護学研究室 学部4年

村瀬 寿安

寒さの峠を越したこの季節、私の手元には一通の郵便が届きました。「あなたは北海道勤務になりました。4月からよろしくお願ひします」

公務員を目指すため、大学3年生の頃から友人と研究室に通い詰め、ようやくその努力が実り、公務員として働けることになりました。しかし、いきなり飛び込んできたその言葉に目を疑いました。

なぜそうなったのか、ことの経緯を話すと、官庁訪問に行った際、面接カードの第二希望に北海道勤務を希望すると書いたからです。書いた当初は、知らない北の大地で自分を試したいという気持ちと、大学2年生のとき、友人と北海道旅行に行き、おいしい食べ物やお酒、広大な自然、その地の人柄に触れて北海道に魅力を感じていました。しかし、実際にそこに住み、働くとなると話が変わってきます。南の端から北の端へ行く訳です。当然、引越しや心の準備が必要となり、残り2ヶ月で身支度をしなくてはいけない状態です。また、私の大好物はちゃんぽんですが、リンガーハットが北海道にはありません。果たして、そんな状態や環境で上手くやっていたのか不安になりました。そんなあるとき、友人から「せっかく行くなら目的を持って、楽しまないと」と言われ、ふと我に返り、楽しみを探すことにしました。

大学では、野鳥研究会やウォークキャンプ愛好会などの多くのサークルに所属しており、鳥見や登山、キャンプなど様々な趣味を持っています。そのため、北海道でしか見られないシマエナガやタンチョウなどのバードウォッチング、北海道の最高峰である旭岳への縦走、広大な自然でのキャンプなど趣味を生かせる楽しみが見つかりました。その他にも、かまくら作りやワカサギ釣りなど、九州でできないことに挑戦できるのも楽しみの一つです。

また、新たな目標もできました。それは、次世代のために北海道の広大で豊かな自然を守り、育むことです。私自身の楽しみを守るため、その楽しみを誰かと共有するため、北海道の自然に真正面から向き合っていきたいと思います。北海道勤務がなんのその、持ち前の好奇心を生かし、社会人になっても様々なことにチャレンジしていきたいです。



アボカド

国際食料資源学特別コース

果樹園芸学研究室 学部4年

上小倉 松太郎

3年生も終わりのころ、それまで何も授業を頭に入れてなかった私は研究室活動や卒業研究に対して何の知識、経験がないことがゆえにすごく不安でした。4月に入り先生のご指導の下アボカドの人工授粉を行うことになりました。人工授粉はとても大変な作業でした。アボカドはとても多くの花を咲かせる果樹なので、人工授粉する数も同様に多くなり夜遅くまで作業することもありました。実際に花を見たり、先生からいろいろな話を聞いたりする中で徐々にアボカドの知識や興味が増えてきました。しかし無事に大変な作業も終え少し経った頃、私はスキーでけがをした時の古傷が痛くなってしまい、少し歩くだけでも痛みがひどくあまり歩きたくなくなっていました。同時に友人関係や実験もうまくいけなくなりやる気をなくしてしまい家にこもりがちになってしまいました。人工授粉のときに見た一瞬にして散ってしまう花々を自分に重ねてしまいアボカド研究から自分は遠のいていきました。あるとき自分が面白半分茎を切ったアボカドの実生苗から新しい芽がたくさん出てきたのを見つけました。遠く環境も違うメキシコから来て茎を切られてもなお新しい芽を出し続けるアボカドに私は動かされました。アボカドに負けていられないと思いました。そこで少し気持ち的に回復し、痛みも動かなかったせいもあり少し落ち着きました。私はアボカドに助けられたと思います。今年はいろいろ新しい経験をして自分自身とても成長できた1年だと思います。大学院に進学しても経験を活かしつつアボカド研究をしてアボカドを助け、時には助けてもらいながら頑張っていこうと思います。

恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

- 【定年退職】** 津田 勝男 令和5年3月31日
 (農業生産科学科 応用植物科学コース・害虫学分野 教授)
 枚田 邦宏 令和5年3月31日
 (農林環境科学科 森林科学コース・森林政策学分野 教授)
 松元 光春 令和5年3月31日
 (共同獣医学部獣医学科 基礎獣医学講座・解剖学分野 教授)
- 【退職】** 後藤 貴文 令和4年11月30日
 (農業生産科学科 畜産科学コース・食肉科学分野 教授)
- 【昇任】** 李 哉泫 令和4年4月1日
 (農業生産科学科 食料農業経済学コース・農業経営学分野 教授)
 加治屋 勝子 令和4年4月1日
 (食料生命科学科 食品機能科学コース・生分子機能学分野 准教授(研究教授))
 一谷 勝之 令和4年7月1日
 (農業生産科学科 応用植物科学コース・植物育種学分野 教授)
 下桐 猛 令和4年11月1日
 (農業生産科学科 畜産科学コース・家畜育種学分野 教授)
 坂井 教郎 令和4年11月1日
 (農業生産科学科 食料農業経済学コース・農業経済学分野 教授)
- 【新任】** 牧野 耕輔 令和4年4月1日
 (農学部附属演習林 助教)
- 【受賞】** 深堀 大介、池永 誠、境 雅夫
 (判明分のみ) (食料生命科学科) 2022.6.19 日本土壤微生物学2022年度大会 優秀ポスター賞
 井上 太雅、奥津 果優、吉崎 由美子、高峯 和則、玉置 尚徳、二神 泰基
 (食料生命科学科) 2022.8.21 第44回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム
 優秀ポスター賞
 野村 哲也
 (附属農場) 2022.9.15 全国大学附属農場協議会 2022年度全国大学農場技術賞
 榊原 夢未、南 雄二、加治屋 勝子
 (食料生命科学科) 2022.9.23 2022年度日本農芸化学会西日本支部優秀発表賞
 高峯 和則
 (食料生命科学科) 2022.10.1 日本醸造協会技術賞
 井上 太雅、奥津 果優、吉崎 由美子、高峯 和則、玉置 尚徳、二神 泰基
 (食料生命科学科) 2022.10.14 第14回日本醸造学会若手シンポジウム
 醸造ベーシックサイエンス賞
 中村 恵理、奥津 果優、吉崎 由美子、高峯 和則、玉置 尚徳、二神 泰基
 (食料生命科学科) 2022.10.17 日本生物工学会 第30回生物工学論文賞
 柴田 雪花、高橋 龍成、前田 幸暉浩、田浦 悟、石川 隆二、久保山 勉、一谷 勝之
 (農業生産科学科) 2022.12.16 第17回九州育種談話会優秀発表賞

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
城 島 十三夫	旧賛助	R.3.1.19		
小 崎 格	旧賛助	R.4.9.13	茨城県つくば市市之台 155-50	夫人 すみ子
荒 井 啓	旧賛助	R.4.12.3	鹿児島市星ヶ峯 5-34-5	夫人 範子
岡 本 新	現賛助	R.4.5.27	鹿児島市西田 3-10-17 城西ハイツ 201	夫人
中 川 光	A.S.17	H.22.9.11	佐賀市鍋島町蛸久 88-8	子息
川 島 成海	A.S.18	R.4.5.7	福岡県行橋市南大橋 4-8-52	子息
大 山 利美	A.S.22	R.4.12.11	福岡市早良区百道浜 1-4-22-1101	子息 研一
島 田 稔汎	A.S.24	R.3.10.14	鹿児島県垂水市田神 79-2	子息 受理夫
布 袋 勝嘉	A.S.25	R.4.3.9	鹿児島市上荒田町 23-8-811	
有 村 公宏	A.S.26	R.3.8.17	鹿児島県伊佐市大口里 1892	
上 園 敏雄	A.S.26		鹿児島県霧島市国分中央 4-6-20	
是 枝 美彦	A.S.26	R.2.10.11	鹿児島市吉野町 2430-13	
堂 元 邦典	A.S.26	R.4.12.27	鹿児島県薩摩川内市西開間町 7-3	夫人 三千代
中 島 英男	A.S.26		福岡県大牟田市田隈 568-1	
岩 崎 義雄	A.S.28	R.4.10.22	長崎市城山台 1-37-21	子息
佐 村 董	A.S.28	R.4.6.19	兵庫県明石市大久保町山手台 2-72	
窪 田 忍	A.S.31	R.4.4.14	鹿児島市下荒田 2-15-8	夫人
佐 竹 虎雄	A.S.31	R.3.3.6	高知市城山町 228-19	夫人 久子
平 源 一	A.S.31	R.4.11.3	東京都江戸川区北葛西 4-2-34-414	夫人 淳子
藤 崎 満	A.S.36	R.4.4.25	鹿児島市桜島藤野町 854	子息
加 藤 弘道	A.S.38	R.4.3.15	福岡県八女市黒木町本分 457-1	夫人 康子
長 井 宏文	A.S.39	R.4.4.28	山口県宇部市東小羽山町 4-8-7-4	夫人 祝子
高 橋 壮介	A.S.42	R.2.1.2	福岡市西区内浜 2-27-38-1	夫人
日 高 哲志	A.S.50	R.4.10.22	沖縄県石垣市白保 14-1	夫人
田 中 稔	F.S.25	H.31.4.17	鹿児島市明和 3-15-13	夫人 律子
角 太	F.S.26	R.4.3.23	大分市舞鶴町 2-3-15	夫人 由佳子
長 濱 三千治	F.S.28	R.4.7.16	福岡県久留米市藤山町 1634-21	夫人 ノブ子
清 藤 典也	F.S.32	R.2.4.9	熊本市北区龍田弓削 1-15-36	夫人
栗 原 武男	F.S.33	R.4.8.24	広島市安佐南区緑井 3-15-36	
天 本 治夫	F.S.35	R.4.4.27	佐賀県三養基郡基山町小倉 1050-4	令嬢 飯田和子
二 宮 隆太郎	F.S.35	R.3.	宮崎県えびの市小田 903	夫人
福 田 桂介	F.S.37	H.30.11.18	熊本市南区御幸笹田 4-5-10	夫人 克子
小 島 紘	F.S.42	R.2.12.	和歌山県田辺市新万 5-24	夫人
藤 島 翔一	F.S.42	R.2.10.14	熊本県上益城郡御船町滝川 89-1	夫人
景 浦 泰三	C.S.16	R.4.3.6	愛媛県東温市樋口 674	令嬢 山本しげ子
馬 場 三巳	C.S.26	R.3.10.17	千葉県稲毛区小仲台 4-3-18-311	子息
瀬 知 道明	C.S.30	R.4.1.9	鹿児島市伊敷 5-26-11	夫人
堀之内 正	C.S.32	R.4.2.3	千葉県柏市逆井 2-29-14	夫人
山 下 實	C.S.34	R.3.11.7	宮崎県都城市都島町 418-3	
岩 本 保典	C.S.42	R.2.10.29	大分市青葉台 2-3-5	
松 元 真理枝	C.S.47	R.3.1.	鹿児島県霧島市隼人町東郷 918-1	兄 明彦
角 田 ひとみ	C.S.62	H.16.	佐賀県鳥栖市儀徳町 2214-9	夫君
日 永 茂	C.S.63	R.4.5.6	熊本市南區城南町東阿高 1284-11	母
内 田 昭	V.S.25	R.4.7.22	大阪府寝屋川市成田東町 38-19	夫人 芳子
小 川 鉄男	V.S.29	R.2.2.23	鹿児島市春日町 14-12	令嬢
秋 吉 輝夫	V.S.33	R.3.2.	三重県津市久居中町 297-4	子息
福 原 弘行	V.S.46	R.2.4.26	鹿児島県出水市野田町上名 460-6	子息
芹 川 康之	Z.S.57	H.31.1.25	熊本県菊池市旭志尾足 412-2	夫人
末 永 尊教	E.S.43	R.4.10.9	北海道札幌市東区北 10 条東 2-1-20-402	夫人 恵美子
前 田 雅大	H.H.5	H.30.1.		
志和屋 輝夫	E.M.S.52	H.30.	鹿児島市川上町 641-4	夫人

本 部 便 り

I. はじめに

令和2年2月から世界的規模の「新型コロナウイルス感染症パンデミック」になり、社会の様々な行事が中止や延期を余儀なくされてきました。令和5年1月現在も収束していませんが、政府は新型コロナウイルス感染症を現在の2類相当から5類へ引き下げの方針を示し議論を進めるなど対応の検討を始めました。母校鹿児島大学においても令和元年度卒業式、令和2年度入学式、令和2年度卒業式、令和3年度入学式、令和3年度卒業式、令和4年度入学式が各学部の卒業生、入学生の代表のみが出席する形に縮小して実施されました。また、教育・研究にも大きな影響がありますが、最近では対面+リモートのハイブリッド授業方式も行われるようになってきました。

私たち鹿児島大学農学部あらた同窓会においても、令和元年度は農学部と共催で行ってきた「卒業祝賀会」を、令和2年度・令和3年度は「卒業祝賀会」および「学生向け講演会」を中止し、令和2年度「あらた同窓会総会」は、書面会議といたしました。

しかし、令和4年度「あらた同窓会総会」は令和3年度「あらた同窓会総会」同様に例年通り11月23日に農・獣医共通棟101号を借用して評議員会を兼ねて実施し、議題は全て承認されました。

なお、毎年2回発行している「農学部あらた同窓会会報」（11月23日に発行の学生会員向け秋季号会報と3月25日（卒業式の日）発行の一般会員向け春季号会報および卒業生・修了生名簿）については、あらた同窓会役員、学内幹事および各支部事務局のご協力が無事に発行できました。特に、「あらた同窓会会報春季号」では新しい取り組み「会員からのエッセー」を今後も継続して募集することが学内幹事会で了承されました。エッセーご寄稿の詳細については本号表紙裏面をご覧ください。

そのような状況下で行われた「あらた同窓会」の令和3年度の活動について、以下に記載し全国のあらた同窓会会員にご報告申し上げます。なお、「あらた同窓会」活動にご意見がある方は事務局（裏表紙に記載）にメール、電話、郵便などご連絡いただけますようお願い申し上げます。

以上、会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

II. 事業及び会計に関する報告

1. 令和3年度事業および会計等に関する報告

（会計年度：令和3年10月1日～令和4年9月30日）

1) 令和4年度総会（兼評議員会）

○開催日：令和4年11月23日(水)15:00～
（約1.5時間）

○場所：鹿児島大学農・獣医共通棟 101号教室
（鹿児島大学正門入り正面建物1F）

令和4年度総会は、令和3年度総会と同様に「密を避けて」鹿児島大学農・獣医共通棟 101号において開催しました。出席者は28名で、協議事項は以下のとおりでした。

- (1) 令和3年度事業報告（案）について
- (2) 令和3年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）および功労者表彰特別会計収支決算（案）について
- (3) 令和3年度会計監査報告について
- (4) 令和4年度事業計画（案）について
- (5) 令和4年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）および功労者表彰特別会計収支予算（案）について
- (6) 役員交代・改選（案）について
- (7) その他

なお、例年総会に先立って開催されてきた恒例の講演会や、総会に引き続いて行っていた「懇親会」は中止しました。また、例年懇親会でやっている「亡師亡友の霊への黙祷」は「総会」において行いました。事務局が把握している物故者の名簿は「鹿児島大学農学部あらた同窓会報令和5年春季号」23ページに記載されていますので、ご参照ください。

2) 令和4年度評議員会

令和3年度評議員会と同様、「新型コロナウイルス感染症」の予防のために、総会を兼評議員会として、議題等について審議を行いました。

3) 常任幹事会及び幹事会

令和3年度の常任幹事会及び幹事会は、対面会議1回、メール会議2回の合計3回開催し、あらた同窓会報（春季号と秋季号）の編集および発行、令和4年度の評議員会並びに総会に付議する議案書等の作成について協議しました。さらに、令和4年8月17日の第3回では、「新型コロナウイルス」感染拡大により鹿児島大学の「学生の授業の方法」を含む教育・研究方針が大きく変更されている中で、8月以降の「あらた同窓会活動」について種々協議し、

以下のような意見をまとめ、会長および副会長の承認を得ることにいたしました。

- (1) 学生向け講演会の開催については学生の授業が対面とオンライン（遠隔授業）のハイブリッド型に変更されていることなどから、一昨年・昨年（令和元年・令和2年）度と同様中止する。
- (2) あらた同窓会報（学生向け）令和4年秋季号（11/23発行）については、従前どおりの日程・内容で発行する。
- (3) 評議員会（例年11月上旬開催）については中止し、協議事項は「総会」で審議する。
- (4) 総会・懇親会については、「総会」は密を避けて広い会場で開催し懇親会は中止する。
今後の常任幹事会及び幹事会については、「新型コロナウイルス」の感染状況に対応してメールおよび対面で臨機応変に行うことにいたします。

4) 会計監査

令和3年度の会計監査は、令和4年10月17日（月）に下川悦郎、黒木譲二、及び菊川明の3監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出されました。事務局パート事務員の時給が鹿児島県の最低賃金を大幅に下回っているため、引き上げの提案をするべきとの意見が出されました。本件については令和4年度総会で提案し承認されました。なお、引き上げ額については会長、副会長で検討することになりました。

5) 会報の発行と送付数

鹿児島大学農学部あらた同窓会報は、3月25日に春季会報（全会員向け）、11月23日に秋季会報（主として学生会員向け）を発行しています。このうち、秋季会報については、学生会員、教員に加えて本部総会時出席者に配布しました。令和4年春季号会報は令和4年3月25日に発行しました。頒布については、「直近5年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」並びに平成29年度評議員会および総会で承認された「可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けする」という趣旨で卒業後5年ごとの連絡先の判明している人の総計3,484人に送付頒布しました。令和5年春季会報については令和5年3月23日に発行します。頒布については、上記会費納入者等の会員や卒業後5（H.30卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.43卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している人に送付・頒布します。

送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封します。なお、会費振込用紙を同封しない、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員宛には、平成28年度以降と同様に同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金」を募集することにします。

6) あらた同窓会経理について

平成29年度から「あらた同窓会報発行」、「卒業生名簿印刷」、「会員名簿印刷」および「会報発送」事業について競争入札を導入してそれらに要する経費を節減したこと、会費納入を郵便局に加えてコンビニでも入金できるようにしたこと、平成29年度以降「春季号」の送付時に、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員に「賛助金」のご協力をお願いした結果、毎年多数の会員から賛助金をいただいたこと等により同窓会経理はかなり改善しました。さらに、令和2年2月から「新型コロナウイルス」感染拡大により、農学部卒業祝賀会や各支部の総会のほとんどが中止になった結果、支出が減少し翌年度への繰越金が大きくなっています。今後も「あらた同窓会報発行」、「卒業生名簿印刷」、「会員名簿印刷」および「会報発送」は維持しつつ、新型コロナウイルス収束後は農学部在学を含む多くの同窓生に向けた積極的な同窓会活動を再開していく必要があると思います。今後、学内幹事会、評議員会、総会で協議・検討し、各支部と連携・協力して活動のさらなる活性化を図っていきたいと考えております。

7) 名簿の発行

「あらた同窓会会員名簿」は平成30年7月に発行しました。次回の「あらた同窓会会員名簿」は令和5年6月に発行することとし、現在、名簿発行会社が会員の消息等の調査を行っております。

8) 学生向け講演会

例年実施している本会と農学部共催の「学生向け講演会」については、学生の授業が対面とオンライン（遠隔授業）のハイブリッド型に変更されていることなどから、幹事会で協議の結果、令和2年度に引き続き令和3年度も実施を中止しました。今後は「新型コロナウイルス」の感染状況と鹿児島大学の授業の実施形態の変化を見ながら、可能であれば実施していきたいと思っております。

9) 地域支部との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしていますが、令和2年4月以降の「新型コロナウイルス」感染拡大

による政府の緊急事態宣言以来、各地の支部総会は軒並み中止になりました。早急な回復を祈りたいものです。

10) 鹿児島大学同窓会連合会

令和2年以降の「新型コロナウイルス感染症」拡大のために令和2年度・令和3年度に引き続き令和4年度入学式も大幅に縮小されたために、令和4年度総会は、令和4年7月30日午後2時から、共通教育棟1号館111号教室で開催されました。懇親会は中止されました。「あらた同窓会」としても鹿児島大学同窓会連合会の活動と連携していきたいと考えて

いますが、「新型コロナウイルス」収束後に持ち越しになっております。なお、毎年同窓会連合会が協力している「きばいやんせ鹿大生2021」はオンラインで開催されました。また、年2回発行の「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会」としても毎号寄稿しており、印刷物は本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布することになっています。

11) その他

特にありません。



賛助金および寄付者ご芳名 (令和4年3月3日～令和4年12月1日)

学科卒年	氏名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	岩元泉
旧賛助	小島孝之
旧賛助	佐藤宗治
旧賛助	竹田靖史
旧賛助	湯川淳一
AS22	中村秀徹
AS22	春松高
AS26	上ノ蘭誠
AS26	八幡正則
AS31	長野和夫
AS31	福山見孝
AS31	村井敏夫
AS32	有園勉
AS32	中園和年
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS33	荒川一光
AS33	有村憲一
AS34	神吉善茂
AS34	竹下勝
AS34	服部喜壽郎
AS35	本藤周博
AS37	浅田謙介
AS37	清水博之
AS37	濱脇吉乃夫
AS37	福本信義
AS37	山下高德
AS37	山本明人
AS38	川村史郎
AS38	坂村道雄
AS38	中田昭一郎
AS38	三好祐二
AS39	山本公明
AS39	横山和正
AS40	橋元紘爾
AS40	萬田正治
AS41	永富成紀
AS41	宮本修
AS42	高橋壮介
AS42	富岡忠勝
AS43	田畑耕作
AS44	石原宏
AS45	入江潤三
AS46	藤岡悦治
AS47	池端裕昭
AS48	高橋氣
AS49	佐野岩男
AS52	平井正明
AS53	佐々木幸子
AS53	竹田泰則
AS53	三木洋二
AS56	三井寿一
AS59	濱田学
AS60	上野一彦
FS22	木村義章
FS24	小幡辰雄

学科卒年	氏名
FS24	紀野武夫
FS26	角太
FS26	安武次郎太
FS29	内邦博
FS30	丸尾睦夫
FS31	岩崎健生
FS31	竹添隆志
FS31	松枝洋一郎
FS31	吉村一郎
FS32	上野達木
FS34	川邊恭右
FS35	中山安宅
FS36	原義広
FS36	本田文男
FS38	勝善鋼
FS38	北村博巳
FS39	岡崎旦
FS39	上拾石紀行
FS39	西田孝義
FS39	早稲田正
FS44	下川悦郎
FS46	北村良介
FH3	小原誠
FH4	堀智弘
SS19	北村勝彦
SS22	増田信己
SS24	田原富貴男
SS29	橋口勉
SS30	永山鉄山
SS32	猩々武徳
SS35	阿南忠義
SS35	林満
SS36	大岩勝徳
SS36	堀之内厚志
SS38	原田哲朗
SS39	田丸猛
SS40	川原俊秀
CS24	梅木繁幸
CS24	岡田信夫
CS25	榎田明
CS26	馬場三巳
CS28	土黒定信
CS29	宇田川義夫
CS29	迫田太
CS30	内藤敦
CS30	濱崎幸男
CS30	山口寛邦
CS31	日高拓満
CS32	堀之内正
CS34	上山誠郎
CS34	小川泰雄
CS34	川寄猛
CS34	門脇申門
CS34	西迫順弘
CS34	長谷場彰
CS34	藤本滋生
CS34	山下實

学科卒年	氏名
CS35	徳田彰
CS35	富吉士行
CS36	前田好美
CS36	松原弘一郎
CS37	相庭繁行
CS37	伊地知亨
CS37	野上雅史
CS37	堀田宗浩
CS37	松尾茂久
CS38	竹添進
CS38	波平元辰
CS39	伊集院勇
CS39	本田寛
CS40	村上暁
CS42	愛甲徳子
CS42	井川隼次
CS44	池邊雄二
CS50	西澤保孝
CS57	園田俊二
CS59	宇都宮裕子
CS60	神野容子
CS63	日永茂
VS19	山口正巳
VS22	横田修
VS26	渡邊幸博
VS29	吉山文蔵
VS31	蔵原久輝
VS32	米倉弘明
VS33	藤田満
VS33	堀之内達男
VS34	白石義明
VS36	西中川駿
VS36	野村浩平
VS36	松元計士
VS37	大漣武徳
VS37	尾下泰彦
VS37	金堂和生
VS41	石黒茂
VS43	永瀬捷明
VS46	柳田興平
VS48	細谷修
VS59	青木英晃
VS60	臂博美
VH17	中島涉
VH20	片山真希
GS32	玉利道満
GS35	赤城英和
GS35	暁泰臣
GS35	窪田孟弘
GS35	中馬越一馬
GS35	丸山孝男
GS35	宮川良幸
GS37	鮎川俊一
GS37	勝目行一
GS37	川井田修
GS37	黒木勇
GS37	野上眞八郎

学科卒年	氏名
GS37	米澤正喜
GS38	岩沢学
GS39	安藤将
GS39	小玉大策
GS39	関保喜代
GS40	中村征一
ZS45	村尾実
ZS46	後迫敏幸
ZS46	所崎旦
ZS53	河井達志
ZS62	城元清巳
ZH1	大塚彰
ES43	松田國男
ES49	中村隆
ES50	石澤一美
ES51	上林房行信
ES52	吉嶺彰二
HS48	富永茂人
HS51	原耕
HS55	井上進
HS56	空閑宏典
HS57	鯨坂明彦
HS59	中村秀人
HH1	川野達生
資H 27	松本輝士
環H 7	大内田真
CMS59	小路稔徳
C32の会	

あらた同窓会役員名簿

令和4年11月23日現在

令和3年度一般会計決算書

収入額 10,909,791円 支出額 3,163,673円 繰越金 7,746,118円

顧問	橋本 文雄 (賛助)	
会長	藤田 晋輔 (林37)	
副会長	浮津 護 (林38)	佐野 岩男 (農49)
	田中 隆義 (農59)	富永 茂人 (常任・園48)
監事	下川 悦郎 (林44)	黒木 譲二 (農47)
	菊川 明 (農48)	
常任幹事		
庶務担当	田浦 悟 (農59)	南 雄二 (化59)
会計担当	末吉 武志 (農工平5)	
会報担当	樗木 直也 (化58)	遠城 道雄 (院農59)
	寺本 行芳 (環平7)	
名簿担当	津田 勝男 (農55)	
広報担当	平 瑞樹 (農工62)	
幹事	坂井 教郎 (賛助)	吉田 理一郎 (賛助)
	奥山 洋一郎 (賛助)	大塚 彰 (畜平1)
	花城 勲 (院農化平6)	下桐 猛 (賛助)
	鶴丸 博人 (資平13)	一二三 達郎 (獸平22)
評議員	大津 清司 (農53)	南 菫 覚 (農56)
	西田 和夫 (農57)	溝添 俊樹 (林41)
	大坪 弘幸 (林45)	永田 鉄山 (蚕30)
	大岩 勝徳 (蚕36)	有村 卓郎 (化56)
	星野 泰啓 (化58)	新納 時英 (獸44)
	高橋 亘 (獸46)	佐々木 幸良 (獸58)
	中村 博大 (畜43)	吉嶺 彰二 (農工52)
	東久保 研一 (園48)	酒瀬川 洋児 (園56)
	東 明弘 (園57)	大久保 祐司 (生平6)
	石橋 松二郎 (資平6)	
	(役職指定)	各地域支部長
	農学部副学部長および学科長	
	鹿児島支部幹事	

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
会費	4,780,000	3,973,000	807,000	
年会費	2,600,000	2,026,000	574,000	延べ 1,013名
入会金	2,080,000	1,947,000	133,000	新正会員 9名 (27,000) 新入生180名 (1,800,000) 卒業生 12名 (120,000)
懇親会費	100,000	0	100,000	新型コロナウイルス感染拡大のため中止 総会のみ開催
賛助金	100,000	1,068,752	△968,752	拠出者 199名
雑収入	100	32	68	利子 (32)
繰越金	5,867,789	5,867,789	0	
繰入金	2,000	218	1,782	基金利子
合計	10,749,889	10,909,791	△159,902	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
会議費	170,000	32,983	137,017	
総会費	20,000	14,079	5,921	会場費等
役員会費	150,000	18,904	131,096	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,174,173	795,827	
印刷費	500,000	354,772	145,228	学生向け会報 (101,200) 春季号会報 (253,572)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	新型コロナウイルス感染拡大のため中止
支部交付金	200,000	165,600	34,400	広島 (2,000) 熊本 (10,400) 鹿児島 (153,200)
旅費	200,000	0	200,000	
通信運搬費	700,000	603,801	96,199	会報送料 (434,247) 振込手数料等 (169,554)
講演会費	20,000	0	20,000	新型コロナウイルス感染拡大のため中止
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	1,960,000	1,533,207	426,793	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長 (360,000) 幹事 (160,000)
賃金	800,000	714,400	85,600	給料
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	18,667	41,333	事務用品等
光熱水費	100,000	94,138	5,862	電気 (85,568) 上下水道 (8,570)
通信運搬費	200,000	128,308	71,692	電話・フレッツ光ネクスト F準利用料 (67,397) インターネット接続料 (23,760) サーバーレンタルドメイン使用料 (11,088) ハガキ・切手 (22,397) 送料等 (3,666)
賃借料	60,000	57,090	2,910	建物使用料 (R.3.4.1~R.4.3.31分)
慶弔費	60,000	604	59,396	弔電
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	23,310	176,690	パソコン保守点検代 (13,310) ブラジル鹿児島県人会便り名刺広告代 (10,000)
繰出金	300,000	300,000	0	
名簿特別会計へ	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
基金特別会計へ	0	0	0	
予備費	6,049,889	0	6,049,889	
合計	10,749,889	3,163,673	7,586,216	

令和3年度 同窓会名簿特別会計決算書

収入額 2,644,394円 支出額 24,200円 繰越金 2,620,194円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異
名簿代	0	0	0
雑収入	50	19	31 利子
繰越金	2,344,375	2,344,375	0
繰入金	300,000	300,000	0 一般会計より
合計	2,644,425	2,644,394	31

支出の部

項目	予算額	決算額	差異
名簿作成費	50,000	24,200	25,800
名簿購入費	0	0	0
印刷費	50,000	24,200	25,800 卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000
予備費	2,589,425	0	2,589,425
合計	2,644,425	24,200	2,620,225

あらた同窓会資産表

令和4年9月末日現在

基金特別会計			
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円	
定期預金	南日本銀行	3,000,000円	
普通預金	鹿児島銀行	601,563円	
合計		13,601,563円	
一般会計			
普通貯金	郵便局	7,746,118円	
名簿特別会計			
普通貯金	郵便局	2,620,194円	
功労者表彰特別会計			
普通貯金	南日本銀行	234,359円	
総計		24,202,234円	

令和3年度 功労者表彰特別会計決算書

収入額 234,359円 支出額 0円 繰越金 234,359円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異
繰越金	184,359	184,359	0
繰入金	50,000	50,000	0 令和3年度積立金
雑収入	20	0	20 利子
合計	234,379	234,359	20

支出の部

項目	予算額	決算額	差異
祝賀会費	0	0	0
記念品費	0	0	0
雑費	0	0	0
予備費	234,379	0	234,379
合計	234,379	0	234,379

監査報告書

あらた同窓会令和3年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和4年10月17日

あらた同窓会

監事 下川悦郎 (印)
 監事 黒木譲二 (印)
 監事 菊川明 (印)

あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

令和4年度 一般会計予算書

収入額 12,628,218円 支出額 12,628,218円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会費	4,780,000	3,973,000	807,000	
年会費	2,600,000	2,026,000	574,000	延べ1,300名
入会金	2,080,000	1,947,000	133,000	新入生 10,000円×(205名) 新正会員 3,000円×(10名)
懇親会費	100,000	0	100,000	同窓会連合会懇親会費
賛助金	100,000	1,068,752	△968,752	賛助金
雑収入	100	32	68	利子等
繰越金	7,746,118	5,867,789	1,878,329	
繰入金	2,000	218	1,782	基金利子
合 計	12,628,218	10,909,791	1,718,427	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会議費	170,000	32,983	137,017	
総会費	20,000	14,079	5,921	会場費等
役員会費	150,000	18,904	131,096	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,174,173	795,827	
印刷費	500,000	354,772	145,228	会報(秋季号、春季号)
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	
支部交付金	200,000	165,600	34,400	各支部へ
旅費	200,000	0	200,000	支部総会出席等
通信運搬費	700,000	603,801	96,199	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	2,060,000	1,533,207	526,793	
役員報酬	520,000	520,000	0	常任副会長・幹事
賃金	900,000	714,400	185,600	給料等 事務員の時給 の値上げ
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	18,667	41,333	事務用品等
光熱水費	100,000	94,138	5,862	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	128,308	71,692	インターネット接続料、 切手・ハガキ等
賃借料	60,000	57,090	2,910	会館建物使用料
慶弔費	60,000	604	59,396	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	23,310	176,690	
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,828,218	0	7,828,218	
合 計	12,628,218	3,163,673	9,464,545	

令和4年度 同窓会名簿特別会計予算書

収入額 2,920,244円 支出額 2,920,244円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	19	34	利子
繰越金	2,620,194	2,344,375	275,819	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合 計	2,920,244	2,644,394	275,850	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿作成費	1,250,000	24,200	1,225,800	
名簿購入費	1,200,000	0	1,200,000	卒業生配布用CD版 1500枚(1枚 800円)
印刷費	50,000	24,200	25,800	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
予備費	1,665,244	0	1,665,244	
合 計	2,920,244	24,200	2,896,044	

令和4年度 功労者表彰特別会計予算書

収入額 284,379円 支出額 284,379円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
繰越金	234,359	184,359	50,000	
繰入金	50,000	50,000	0	令和4年度積立金
雑収入	20	0	20	利子
合 計	284,379	234,359	50,020	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	284,379	0	284,379	
合 計	284,379	0	284,379	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

- 第1章 総 則
(名称)
- 第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。
- (目的)
- 第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
- 第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。
- (1) 会報及び会員名簿の発行
 - (2) 農学部との連携及び協力
 - (3) その他必要と認められた事項
- (支部)
- 第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。
- 第2章 会 員
(会員)
- 第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。
- 正会員
- 鹿児島高等農林学校卒業生
 - 鹿児島農林専門学校卒業生
 - 鹿児島大学農学部卒業生
 - 鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者
- 学生会員
- 農学部及び大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生
- 賛助会員
- 現賛助会員（現職教員）
 - 旧賛助会員（退職教員）
- 2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。
- 第3章 役 員 等
(役員)
- 第6条 本会に次の役員を置く。
- | | |
|------------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 常任副会長 | 1名 |
| (3) 副会長 | 3名 |
| (4) 評議員 | 若干名 |
| (5) 監事 | 3名 |
| (6) 常任幹事及び幹事 | 若干名 |
| (7) その他会長が認められた者 | |
- (役員を選任)
- 第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。
- 2 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。
- 3 幹事は、農学部のコース等から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。
- (役員の仕事)
- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 6 常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。
- (役員の仕事)
- 第9条 総会で選任された役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の仕事は前任者の残任期間とする。
- (名誉会長及び顧問)
- 第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。
- 2 名誉会長は会長が委嘱する。
- 3 農学部長は本会の顧問とする。

4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会 議
(会議)

- 第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。
- (総会)
- 第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。
- 2 総会は、次に掲げる事項を審議する。
- (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認められた事項
- 3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。
- 4 総会の議長は出席者の中から選出する。
- 5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (臨時総会)
- 第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。
- 2 臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。
- (評議員会)
- 第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。
- 2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。
- (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項
- (幹事会)
- 第15条 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。
- 2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。
- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
 - (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第5章 会 計
(経費)

- 第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。
- 2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。
- 3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。
- 4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。
- (会計年度)
- 第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。
- (監査)
- 第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

第6章 事 務 局 等

- 第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。
- 2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

- 第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 本会則は、昭和28年12月12日より施行する。
- 本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。

覚 書

- 1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。
- 2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

編集後記

今日から2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって1年がたとうとしています。ウクライナの人たちの苦しみは、想像を絶するものだと思います。なかなか真相はわからないものですが、「プーチンの戦争」という言葉があるように、ロシアの独裁者であるプーチン大統領の強い意志がもたらしたものであることは間違いなさそうです。一方お隣の中国では、共産党トップであり権力を掌握する習近平国家主席が異例の3期目の任期入りを果たし、それまで掲げていた「ゼロコロナ政策」を唐突に放棄し、爆発的な感染が起こり、かなりの死者が出ているようです。

権力が個人に集中する独裁体制の恐ろしさは十分に認識されていて、そうならないような仕組みが工夫されてきたのが民主主義なのだと思います。しかし、ちょっと油断すると独裁者が台頭し、とんでもないことになるということをあらためて実感しています。彼らは巧妙で、オリガルヒやシロビキ（ロシアの新興財閥・軍・治安組織）、共産党上層部などの支持母体を利益誘導しながら利用し、権力基盤を固めて行き、いつの間にか強力な独裁体制ができてしまったようです。

ところで今の国立大学法人の「ガバナンス」は「トップダウン」だそうですが、「トップダウン」というのは独裁ということと違うのでしょうか。無批判にウカウカしていて、とんでもないことにならなければいいのですけれど。

(文責 食料生命科学科 樗木直也)

鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目2-1-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail(arataikai@mc2.seikyuu.ne.jp)

(※令和6年1月まで)

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印刷所 株式会社鹿児島新生社印刷

住所 鹿児島市七ツ島1-3-21

TEL 099-261-0111

FAX 099-261-3100

E-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp



池田湖からみた開聞岳（2022年4月18日）（寺田竜太氏提供）

ホームページ リニューアル いたしました



←こちらからアクセス

<http://aratadousokai.org/>



住所変更・会員登録が
サイトからできるよう
になりました。



ギャラリーの
閲覧写真が
増えました。

スマホでも
見やすく
なりました。

